

地域研究センター年報

令和元（2019）年度 第12号



やわらかな知性を身につける。

宮崎公立大学
MMU LIBERAL ARTS



目 次

地域研究センター長あいさつ	1
令和元(2019)年度地域研究センター学年暦	3
I 生涯教育事業	
定期公開講座	
「令和時代の国際政治経済」	8
自主講座	18
小中学生講座	32
語学講座	36
英 語	37
中国語	38
韓国語	39
アンケート	41
開放授業	50
令和元(2019)年度前期	51
令和元(2019)年度後期	53
その他講座・講演	56
目指せ！発音マスター	
—最新の発音認知ソフトと国際音声記号の活用—	57
大学生・大学院生・教員の視点から	
英語教育の理論と実践を考える	60
公民館講座	64

II 研究事業

令和元(2019)年度 宮崎市学術研究振興助成事業	68
---------------------------	----

令和元(2019)年度 地域貢献研究事業報告書	
-------------------------	--

援助要請の向上を目的とした介入プログラムの展開 ～助け合いのコミュニティ創出に向けて～	72
--	----

III 連携協力事業

宮崎市教育委員会との連携協力	80
宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力	88
宮崎商工会議所との連携協力	89
宮崎日日新聞社との連携協力	90

IV 資 料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況	112
地域貢献部会開催実績	113

V 付 録

新聞掲載記事一覧	116
新聞掲載記事	117

地域研究センター長あいさつ



地域研究センター長 竹野 茂

宮崎公立大学地域研究センター年報第12号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
地域の皆様におかれまして、日頃から宮崎公立大学の地域貢献活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本学では、大学の知を広く地域社会に還元するための生涯学習事業や、地域の問題解決に貢献する創造的な研究活動などの地域貢献活動に積極的に取り組んでいくために、本年度、本学の第3期中期計画に基づきまして、「宮崎公立大学地域貢献推進に関する基本方針」「宮崎公立大学地域貢献推進の基本方針に基づく細目」を見直し改定いたしました。また、SDGsの説明を含んだ「宮崎公立大学地域貢献活動リスト」を作成し、地域からの研究依頼や講演要請等とのマッチングを図る上で本学の先生方の研究等の情報を取りまとめました。

地域貢献推進に欠かせない基盤づくりを進めながら、2019年度も様々な地域貢献活動に取り組んでまいりました。「定期公開講座」では「令和時代の国際政治経済」を統一テーマに、9月から10月の毎週金曜日に全5回実施し、307名の参加を得て好評を得ました。国内外の政治や経済の最新的话题をわかりやすくご講演いただいたと思います。まさに消費税の引き上げという時期に、財務省からのゲストスピーカー古川健氏に税についてのご講演をいただいたのもよかったと考えております。英語・中国語・韓国語の語学講座もそれぞれ延べ798名、351名、364名の参加があり、好評でした。教員が独自の企画で行う「自主講座」では、内訳は、①第3回 地域のお宝発掘・発展・発信事業を考える～ホテルフットパス（永松敦教授）、②よみがえる江戸時代の宮崎（大賀邦夫教授）、③ストレスと上手につきあう心理学（川瀬隆千教授）、④教育機関・地域と連携した防災教育（第9回スト

リートウォッチング) (辻利則教授)、⑤若者の「多様なキャリア」の社会学(寺町晋哉助教・現准教授)、⑥夏目漱石を読む(楠田剛士准教授)の6件の講座が開設されました。また、宮崎市が主催する「公民館講座」へは、川瀬隆千教授、楠田剛士准教授の2名の教員が参画し4件の講座を行いました。小学生を対象とした「楽しく学べる小学5・6年生英語教室」は、例年2月～3月の土曜日、日曜日で開催されていたものを夏休み期間に日程を変更して実施し、23名の参加者がありました。「苦手だった英語が好きになった」「初めて会った人たちとゲームなどの遊びでしゃべれるようになった」「友達がたくさんできて嬉しかった」「4回だったがもっと回数があればよかったと思うほど楽しかった」など子供たちから英語学習に対して前向きな気持ちが引き出せたと考えます。

宮崎公立大学の授業の一部を学生と一緒に学ぶ「開放授業」では、前期・後期で計24科目を開設し、延べ93名が受講しました。第3期中期計画においてはリカレント教育として新たな講座の実施に向けた方向性を打ち出しており、今後、この「開放授業」は形を変えて発展させることを考えております。

2020年の2月中旬までは順調に地域貢献活動を続けてまいりましたが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大という状況を受けまして、本学としても様々な感染拡大防止対策に追われました。その結果、3月に予定されていた自主講座:「共感が大切」って本当!?ー倫理学から考えるー(川瀬和也助教・現准教授)を中止せざるを得ませんでした。その他2020年に入ってから、様々な面で地域貢献活動に支障をきたしました。

宮崎公立大学地域研究センターは、新型コロナウイルス感染の収束に依然として目処が立たぬ中ではありますが、今後も地域社会に貢献する人材の育成や地域の問題解決に資する創造的な研究活動を通して、地域社会との連携・協働を踏まえ、活力ある地域づくりに積極的な役割を果たしていきたいと考えています。宮崎公立大学の地域貢献活動への一層のご理解とご支援をお願いいたします。

宮崎公立大学 2019年度 地域研究センター学年暦
2019 Academic Calendar

前 期 (2019年4月～9月)

4月			7月		
月	1		月	1	韓国語講座⑧
火	2		火	2	英語講座⑧
水	3		水	3	
木	4		木	4	中国語講座⑧
金	5		金	5	
土	6		土	6	
日	7		日	7	
月	8		月	8	韓国語講座⑨
火	9		火	9	英語講座⑨
水	10		水	10	
木	11		木	11	地域貢献部会④ 中国語講座⑨
金	12		金	12	
土	13		土	13	
日	14		日	14	
月	15		月	15	韓国語講座⑩
火	16		火	16	英語講座⑩
水	17		水	17	
木	18		木	18	中国語講座⑩
金	19		金	19	
土	20		土	20	川瀬教授 自主講座
日	21		日	21	
月	22		月	22	
火	23		火	23	小学5・6年生初級英語教室
水	24		水	24	
木	25	地域貢献部会①	木	25	
金	26		金	26	小学5・6年生初級英語教室
土	27		土	27	小学5・6年生初級英語教室
日	28		日	28	
月	29	昭和の日	月	29	小学5・6年生初級英語教室
火	30	国民の休日	火	30	
水			水	31	
木			木		
金			金		
土			土		
日			日		
月			月		

宮崎公立大学 2019年度 地域研究センター学年暦
2019 Academic Calendar

後 期 (2019年10月～2020年3月)

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
火	1	英語講座⑪							水	1	元日						
水	2								木	2							
木	3	中国語講座⑪							金	3							
金	4	定期公開講座②	1	凌雲祭準備(休講)					土	4	冬季休業終了	1					
土	5		2	凌雲祭					日	5		2			1		
日	6		3	凌雲祭・文化の日	1				月	6		3			2		
月	7	韓国語講座⑫	4	凌雲祭撤収・振替休日	2	韓国語講座⑮			火	7		4			3		
火	8	地域貢献部会⑥ 英語講座⑫	5	辻教授 自主講座 英語講座⑮	3	英語講座⑮			水	8		5			4		
水	9		6		4				木	9		6			5		
木	10	中国語講座⑫	7	中国語講座⑮	5	中国語講座⑮			金	10		7			6		
金	11	定期公開講座③	8		6				土	11	補講日	8	永松教授 自主講座		7		
土	12		9		7	補講日			日	12		9			8		
日	13		10		8				月	13	成人の日	10			9	地域貢献部会⑪	
月	14	体育の日	11	韓国語講座⑮	9	韓国語講座⑮			火	14		11	建国記念の日		10		
火	15	英語講座⑬	12	辻教授 自主講座 英語講座⑮	10	英語講座⑮			水	15		12	地域貢献部会⑩		11		
水	16		13		11				木	16		13			12		
木	17	中国語講座⑬	14	中国語講座⑮	12				金	17		14			13		
金	18	定期公開講座④	15	地域貢献部会⑦	13	地域貢献部会⑧			土	18		15			14		
土	19		16		14	補講日			日	19		16			15		
日	20		17		15				月	20		17			16		
月	21	韓国語講座⑬	18	韓国語講座⑮	16	韓国語講座⑮			火	21		18			17		
火	22	即位礼正殿の儀(祝日)	19	英語講座⑮	17				水	22		19			18		
水	23		20		18				木	23		20			19		
木	24	中国語講座⑭	21	中国語講座⑮	19				金	24		21			20	春分の日	
金	25	定期公開講座⑤	22		20				土	25		22			21		
土	26		23		21				日	26		23	天皇誕生日		22		
日	27		24		22				月	27	地域貢献部会⑨	24	振替休日		23		
月	28	韓国語講座⑭	25	韓国語講座⑮	23				火	28		25			24	卒業式	
火	29	英語講座⑭	26	英語講座⑮	24				水	29		26			25		
水	30		27		25				木	30		27			26		
木	31	中国語講座⑮	28	中国語講座⑮	26				金	31		28			27		
金			29		27				土			29	補田准教授 自主講座		28		
土			30	寺町准教授 自主講座	28	冬季休業			日						29		
日					29				月						30		
月					30				火						31		
火					31												

I 生涯教育事業

＊ 定期公開講座

＊ 自主講座

＊ 小中学生講座

＊ 語学講座

＊ 開放授業

＊ その他講座・講演

＊ 公民館講座

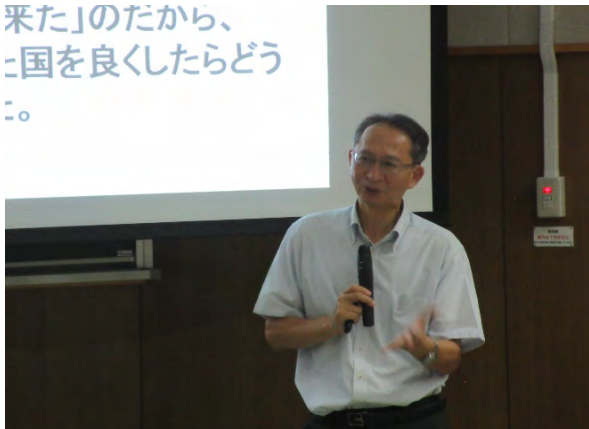
令和元(2019)年度 定期公開講座

令和元年度 宮崎公立大学 定期公開講座
* 全体テーマ 「令和時代の国際政治経済」

講義	日 時	講 座 演 題	講 師
第 1 回	9月27日(金) 18:30～20:00	開講あいさつ	竹野 地域研究センター長
		日本における女性首相の可能性	宮崎公立大学 山口 裕司 教授
第 2 回	10月4日(金) 18:30～20:00	トランプ政権の政治外交 ーその特殊性についてー	宮崎公立大学 田中 宏明 教授
第 3 回	10月11日(金) 18:30～20:00	講師紹介	竹野 地域研究センター長
		税財政の現状と課題	財務省 主税局総務課 総務第一係長 古川 健 氏
第 4 回	10月18日(金) 18:30～20:00	宮崎の貿易パートナーを検証する ー産業内貿易の観点からー	宮崎公立大学 稲田 光朗 助教
第 5 回	10月25日(金) 18:30～20:00	新自由主義とは何か?	宮崎公立大学 清水 習 助教
		閉講あいさつ	田中 国際政治経済専攻長

講座名		宮崎公立大学 定期公開講座 「令和時代の国際政治経済」	
実施期間・回数		令和元年 9 月 27 日（金） ～ 令和元年 10 月 25 日（金） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分	全 5 回
会 場		宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
回	講 師	タ イ ト ル	
1	宮崎公立大学 山口 裕司 教授	日本における女性首相の可能性	
2	宮崎公立大学 田中 宏明 教授	トランプ政権の政治外交 ―その特殊性について―	
3	財務省主税局総務課 総務第一係長 古川 健 氏	税財政の現状と課題	
4	宮崎公立大学 稲田 光朗 助教	宮崎の貿易パートナーを検証する ―産業内貿易の観点から―	
5	宮崎公立大学 清水 習 助教	新自由主義とは何か？	
受講者負担		受講料無料	
配付資料等		受講のしおり 各講座資料	
募集定員		200 名	
(応募要件)		高校生以上	
延べ参加者数		308 名（うちアンケート回収 256 名）	
【講座風景】			
			
＊第 1 回講座 日本における女性首相の可能性		＊第 5 回講座 新自由主義とは何か？	
【受講者アンケートから抜粋】			
・ 今回、初めて参加させていただいたのですが、たくさんの方が参加していて多用な考えを取り入れられる機会となりました。 ・ 貴重な講話ありがとうございました。高校の授業では学ぶことのできないことが学べ、参加してよかったと感じました。受講者の方の年齢層が高く、また、熱心な方が多くて驚きましたし、見習いたいと思いました。 ・ 正しく理解できるようになれたと思います。一般メディアでは得られない知見が得られたと思います。			

宮崎公立大学 定期公開講座 （第1回講座 / 全5回） 「令和時代の国際政治経済」		
実施日時	令和元年9月27日（金曜日） 午後6時30分～午後8時00分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受講者負担	なし（受講料無料）	
応募要件	高校生以上	
配付資料	受講のしおり、講座資料	
演 題		担 当 講 師
日本における女性首相の可能性		宮崎公立大学 山口 裕司 教授
講義の概要	わが国の「男女共同参画社会基本法」が施行されて今年で 20 年になります。その間、この法律を踏まえて、男性優位社会から男女平等社会への様々な取り組みがなされてきました。なかでも 2003 年の政府目標、「社会のあらゆる分野において、2020 年までに、女性が指導的地位に占める割合を 30% にする」は画期的でした。しかし今年 2019 年の現状は、その目標からほど遠いです。特に国会議員（衆議院）の女性議員比率は約 10% で世界各国と比較しても極端に低いレベルです。 このような現状でよいのだろうかという視点で、女性政治家（議員）が増えるにはどうすればよいのか、そしてその先に見えてくる日本初の女性首相が登場するための条件とは何か、などを検討するのがこの講座のねらいです。	
受講者数	受講者数：69 名 （うちアンケート回収 59 名）	
【講座風景】＊講座担当の山口 裕司 教授		
 		
【受講感想:アンケートから抜粋】 ・ 私は今まで、女性が首相になることに違和感が少しありました。しかし、この講座を受け、女性が首相になることにより、たくさんのメリットがあることを知り、考えが変わりました。 ・ 現在の日本は、世界に比べて女性議員の割合が少ないので、女性の割合を増やせば多くの観点から政治を行い、更に良い国づくりができると感じた。		

宮崎公立大学 定期公開講座 （第2回講座 / 全5回） 「令和時代の国際政治経済」		
実施日時	令和元年10月4日（金曜日） 午後6時30分～午後8時00分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受講者負担	なし（受講料無料）	
応募要件	高校生以上	
配付資料	受講のしおり、講座資料	
演 題		担 当 講 師
トランプ政権の政治外交 ―その特殊性について―		宮崎公立大学 田中 宏明 教授
講義の概要	トランプ大統領は人種差別や女性蔑視につながる暴言を連発していますが、それでも政権の支持率がひどく低下することなく、政権発足以来 40パーセント代前半の支持率を維持しています。なぜなのでしょう。 対外的にもトランプ大統領は、2017年に北朝鮮への武力攻撃を示唆したかと思えば、一転して、2018年6月にはシンガポールで金正恩委員長と会談しました。トランプ大統領は何と「わたしたちは恋に落ちた」と述べています。しかし、その後の会談でも交渉は進展せず、北朝鮮は短距離ミサイルを何度も発射していますが、トランプ大統領はそれを非難することはありません。これもなぜなのでしょう。 このようにトランプ政権には不思議がいっぱいです。この不思議をこまめに分析することも興味深いのですが、本講座ではアメリカにおける政治の対立軸と外交の対立軸を考えながらトランプ政権の政治外交の特殊性を解き明かしていきたいと思います。	
受講者数	受講者数：69名 （うちアンケート回収 62名）	
【講座風景】＊講座担当の田中 宏明 教授 来た」のだから、 二国を良くしたらどう 二。  		
【受講感想：アンケートから抜粋】 ・ 米日の政治的勢力図、米日における保守・リベラルの概念、新聞・テレビでよく聞く言葉（エスタブリッシュメント等）など、判り易く説明していただき理解を深めることができた。トランプ外交の考え方、流れが理解でき、今後、新聞等を読んでいく中で、大変参考になると思う。 ・ やはりトランプ大統領とオバマ前大統領の考え方は、真反対な考えだと感じた。アメリカ内にも2つの政党が対立し、これも考え方がそれぞれ異なると改めて感じた。今後、アメリカがどういう行動をとるか不安な一面もあるが、世界に良い影響を与えてくれるといいなと思う。		

宮崎公立大学 定期公開講座 （ 第 3 回講座 / 全 5 回 ） 「令和時代の国際政治経済」		
実 施 日 時	令和元年 10 月 11 日（金曜日） 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分	
会 場 ・ 時 間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受 講 者 負 担	なし（受講料無料）	
応 募 要 件	高校生以上	
配 付 資 料	受講のしおり	
演 題		担 当 講 師
税財政の現状と課題		財務省 主税局総務課 総務第一係長 古川 健 氏
講 義 の 概 要	我が国の税制は、飛鳥時代の「租・調・庸」に始まり、江戸時代に農民が納めた「年貢」や明治政府による「地租改正」など、その当時、国家の置かれた状況に応じて大きく変化してきました。 翻って、現在、我が国はグローバル化・少子高齢化の進展などの経済社会構造の変化に直面しています。税制においても、こうした変化に対応して、各税目が果たすべき役割を見据えながら、その在り方を検討することが求められています。こうした中、主税局職員が、税財政の現状と課題について講演するとともに、皆さんと一緒に考えを深めていきたいと思ひます。	
受 講 者 数	受 講 者 数：57 名 （うちアンケート回収 49 名）	
【講座風景】＊講座担当の古川 健 氏  		
【受講感想：アンケートから抜粋】 - 日本の税制はマスコミがたたきすぎ、不公平なものではないという印象を持ちました。 - 税の現状、各国との比較、税制改正プロセス、各税項目の内容がよく理解できた。今後、消費税の引き上げが求められてくると考えるが、国民への啓蒙が重要になってくると思う。 - 少子高齢化が進む中で消費税の重要性が系統的に、又、他国との比較でもよくわかった。税制一般についても大変勉強になった。		

宮崎公立大学 定期公開講座 （第4回講座 / 全5回） 「令和時代の国際政治経済」		
実施日時	令和元年10月18日（金曜日） 午後6時30分～午後8時00分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟 103 大講義室	
受講者負担	なし（受講料無料）	
応募要件	高校生以上	
配付資料	受講のしおり、講座資料	
演 題		担 当 講 師
宮崎の貿易パートナーを検証する ―産業内貿易の観点から―		宮崎公立大学 稲田 光朗 助教
講義の概要	TPP、日欧 EPA、日米 TAG 交渉など農業貿易が自由化を含む、地域貿易協定が相次いで締結されている。こうした自由貿易の推進はなぜ生じてきているのか、自由貿易にどのように対応しなければならないのか、社会的懸念が高まっている。本講義は、こうした懸念に答える第一歩として、宮崎の貿易パートナーを現代の主流派経済学である近代経済学の立場から検証する。より具体的には、現代の貿易の特徴である、産業内貿易指数の概念に基づき、受講生とともに検討する。こうした学習を通じて、相次ぐ農業に関する貿易自由化にどのように対応していけばよいのか、基本的な考えについて理解を深める一助としたい。	
受講者数	受講者数：45名 （うちアンケート回収 33 名）	
【講座風景】＊講座担当の稲田 光朗 助教		
 		
【受講感想：アンケートから抜粋】		
・ 「産業内貿易」という概念は初めて聞いたが、説明内容が判り易くよく理解できた。又、宮崎「産業内貿易」の低さにびっくりした。（農業）農家の高齢化が農業の自由化が止まらない要因だということであるが、農業構造の改革（担い手の育成、法人化等）を進めていくことの必要性を感じた。また、韓国・中国とも仲良くしていく必要性を改めて感じた。 ・ 宮崎県の課題が浮き彫りにされてきたが、今後、少子化の中で労働人口等どう解決して農産物輸出を増やしていくか、官・民・産・学協力した具体的取り組み（アクション）が必要だと思った。また、貿易に関して港湾・空港等のインフラの整備・人材育成（語学のできる人）が必要と思った。		

宮崎公立大学 定期公開講座 （第5回講座 / 全5回） 「令和時代の国際政治経済」		
実施日時	令和元年10月25日（金曜日） 午後6時30分～午後8時00分	
会場・時間	宮崎公立大学 研究講義棟103大講義室	
受講者負担	なし（受講料無料）	
応募要件	高校生以上	
配付資料	受講のしおり、講座資料	
演 題		担 当 講 師
新自由主義とは何か？		宮崎公立大学 清水 習 助教
講義の概要	2008年のリーマンショック以降、「新自由主義（Neo-Liberalism）」という言葉が、一躍脚光を浴びることとなりました。それから、10年経った現在でも、「新自由主義」は現代政治経済を理解するうえで必須のキーワードとして扱われています。実際、日本においても、NHK 特別番組「欲望の資本主義」等で、「新自由主義」が主要なテーマとして取り扱われることで一般にも広く知られるようになりました。 しかし、「新自由主義」の認知度が広まる中で、その「概念」が一体何を意味し、何が問題であるのかという点においては、学界においてさえ至極曖昧なまま議論されていることは否めません。今回の講座では、この「新自由主義」と呼ばれる概念がどのように歴史的に発達し、何故、今、現代政治経済を理解するうえで重要なものとなっているかを考えてみたいと思います。	
受講者数	受講者数：68名 （うちアンケート回収53名）	
【講座風景】＊講座担当の清水 習 助教  		
【受講感想：アンケートから抜粋】 ・ 新自由主義についてあまり詳しくなかったが、今回知らなかったことを知ることができた。新自由主義の経緯を知ることによって、今後、どういう動きを取るか興味を持った。日本や世界が、これからどういう経済をするのか注目していきたい。 ・ 私は、高校で新自由主義についてあまり深く考えたことがありませんでした。なので、はじめは難しいものだと思っていたけど、説明が丁寧で分かり易かったです。		

令和元年度 宮崎公立大学 定期公開講座

令和時代の国際政治経済

本学で毎年恒例の定期公開講座を今年度も実施します。今年度は、本学の国際政治経済専攻の4名の教員に加え、財務省関係の講師も交えて全5回の講座を実施します。5回のうち1回のみの参加も可能ですので、この機会にぜひ、本学の講座を体験してみませんか。

日 程

令和元年
9月27日～10月25日 (毎週金曜日、全5回)

受講料無料

時 間

**18時30分
～20時**

会 場

宮崎公立大学
103大講義室

各日程のテーマ・講師

回・日程	講座テーマ	担当講師
第1回 9月27日 (金)	日本における女性首相の可能性	宮崎公立大学 教授 山口 裕司
第2回 10月 4日 (金)	トランプ政権の政治外交 —その特殊性について—	宮崎公立大学 教授 田中 宏明
第3回 10月11日 (金)	税財政の現状と課題	財務省 主税局担当者
第4回 10月18日 (金)	宮崎の貿易パートナーを検証する —産業内貿易の観点から—	宮崎公立大学 助教 稲田 光朗
第5回 10月25日 (金)	新自由主義とは何か？	宮崎公立大学 助教 清水 習





令和元年度 宮崎公立大学 定期公開講座

令和時代の国際政治経済

受講料
無料

申込方法 (講座期間中も受け付けいたします。1回のみ受講も可能です。)

電話	下記地域研究センターにお電話の上、定期公開講座受講希望の旨お伝えください。 電話番号：0985-20-4772 (宮崎公立大学 地域研究センター直通)
FAX	本申込書に必要事項をきれいに記入の上、FAXにてご送信ください。 FAX番号：0985-20-4773
Eメール	メールの本文に、氏名 (ふりがな)・連絡のつく電話番号・受講希望日を入力し、下記のアドレスまで送信してください。 Eメールアドレス: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

※お申し込み受付後、特にご連絡はいたしませんので、当日会場にお越しください。

令和元年度 宮崎公立大学 定期公開講座申込書

(ふりがな) 氏 名	
電話番号	※連絡が取れる電話番号をご記入ください。 —
受講希望日	※参加希望日の口をチェックしてください。1回のみ受講も可能です。 ☐ 9月27日 (金) ☐ 10月4日 (金) ☐ 10月11日 (金) ☐ 10月18日 (金) ☐ 10月25日 (金)

問合せ先

宮崎公立大学 地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL : 0985-20-4772 FAX : 0985-20-4773
Email : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp
受付時間：平日9時～17時

詳細はウェブサイトをチェック

宮崎公立大学

検索

<http://www.miyazaki-mu.ac.jp/>



令和元(2019)年度 自主講座申請一覧

NO.	講座・講師名	講座目的	講座内容	講座日程等
1	第3回 地域のお宝発掘・発展・発信事業を考える 永松 敦 教授	宮崎市が推進している左記の事業の問題点と発展性を、市民とともに考える機会をつくる。	第1回 5月11日(土)15時～20時 「第3回 地域のお宝発掘・発展・発信事業を考える」 会場：103 大講義室 鼎談 北九州市立大学 地域創生学群 准教授 廣川祐司氏 フットパス研究所代表 井澤るり子氏 本学教授 永松敦 18時～20時 「ホテルフットパス」 会場：平和台公園 第2回 2月8日(土)12時～17時 講演「みんな集まろう・食べて・学んで・楽しんで！」 会場：平和台公園レストハウス 大阪国際大学経営経済学部 経済学科 准教授 早川公氏 (前宮崎大学みやだいCOC推進機構特任助教) 「シンポジウム」 宮崎大学地域資源創成学部 教授 根岸裕孝氏 大阪国際大学経営経済学部 経済学科 准教授 早川公氏 本学教授 永松敦 地元 2名	1回目 ・5月11日(土) ・15:00～17:00 (103 大講義室他) ・18:00～20:00 (平和台公園) 2回目 ・2月8日(土) ・12:00～17:00 ・平和台公園 ・全2回 ・250人募集 ・一般市民

2	よみがえる江戸時代の宮崎 大賀 郁夫 教授	江戸時代の宮崎を史料や絵図から復元し、郷土意識を高める。	近世後期に描かれた絵図から宮崎市街地の位置を確認し「名寄帳」によって江戸時代の宮崎の土地柄・産物・生活環境等を復元する。	・ 6 月 22 日 (土) ・ 10:00～12:00 ・ 全 1 回 ・ 30 人募集 ・ 宮崎市民
3	ストレスと上手につきあう心理学 川瀬 隆千 教授	「ストレス」とは何でしょうか。よく使う言葉ですが、実はよくわかりません。私たちの身の回りのストレスについて心理学の観点から解説し、ストレスにうまく対処する方法を考えます。	ストレスに関する心理学的な理論や考え方を紹介した上で、個人によるストレスへの対処、困難な状態にある人たちへの周りの人たちからの支援、上手に助けを求める方法などのストレス対処方法とメンタルヘルスとの関係について実践的に考えます。	・ 7 月 20 日 (土) ・ 13:30～16:30 ・ 全 1 回 ・ 100 人募集 ・ 一般市民
4	教育機関・地域と連携した防災教育 (第 9 回ストーリーウォッチング) 辻 利則 教授	将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みについて、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的とする。	小学生を対象に、教育機関と連携し、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて講座 (35 人程度のクラスで 5 回程度) 行う。また、実際に地域の危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために調査 (全体 1 回) を行う。調査は、地域住民、障がい者団体、そして本学の大学生を募り、最後に危険箇所、避難場所等を地図上に記入してまとめる。	・ 11 月 5 日 (火) 11 月 12 日 (火) ・ 8:30～13:00 ・ 授業 2 回 調査 1 回 ・ 180 人募集 ・ 小学生、地域住民 (障がい者)、大学生

5	若者の多様なキャリアの社会学 寺町 晋哉 助教	学校教育以降の若者のキャリアを社会的に考察する。	学校卒業後に「夢」をおうバンドマン、少年院退院後の若者たちのキャリアに関して話題提供してもらい、フロアを含めたディスカッションを行う。	・ 11 月 30 日 (土) ・ 14 時～17 時 ・ 全 1 回 ・ 50 人募集 ・ 高校生以上
6	夏目漱石を読む 楠田 剛士 准教授	夏目漱石の人と作品について学びます。	夏目漱石は生誕 150 年を過ぎた現在でも近代日本の代表的な作家であり、その作品群はなおも魅力的で問題提起的です。本講座では夏目漱石研究者の藤本晃嗣氏を招き、参加者との意見交換も交えながら、夏目漱石の小説を読み味わいます。	・ 2 月 29 日 (土) ・ 14:00～16:00 ・ 全 1 回 ・ 100 人募集 ・ 一般市民

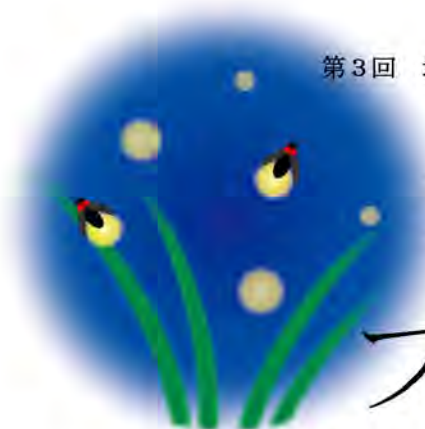
講座名		第3回 地域のお宝発掘・発見・発信事業を考える	
実施期間 回数	令和元年5月11日(土) ・ 令和2年2月8日(土)		全 2 回
会場	(学内) (学外) 【 103 教室 】 【 平和台公園 】		
講師	(職氏名) 北九州市立大学 准教授 廣川 祐司 ・ 大阪国際大学 准教授 早川 公 山形大学 教授 江頭 宏昌 ・ 南九州大学 教授 竹之山 慎一		
共催者	宮崎公立大学学長裁量助成事業、宮崎市地域のお宝発掘・発展・発信事業		
後援			
その他スタッフ	学生アルバイト 2名		
受講者負担	(受講料) 【 0 円】		
配付資料等	プリント		
募集定員	100名		
(募集条件)			
参加者数	受講申込者 : 50名 受講者数 : 第1回講座 10名 フットパス 50名 第2回講座 50名 受講者のべ総数 : 110名		

【講座の内容】 早川 公先生の講演 	【講座風景写真】 シンポジウム 
--	---

【講師コメント】 平和台公園の有効利用の可能性はまだまだあると考えられる。今後ともフットパスを試行する価値はある (廣川) 住民と執行部がどのような位置関係であいつ対峙して地域創生に向かっていくかが課題。在来野菜による地域創生など当方も大変勉強になった有意義な会だった。(早川)
--

2019年度 宮崎公立大学自主講座

第3回 地域のお宝発掘・発展・発信事業を考える（前半）



ホタル フットパス

～平和台公園でホタルを見よう～

2019年5月11日（土）

第1部

【時間】15:00～17:00

【場所】宮崎公立大学 103大講義室

「フットパスを語る」

※ フットパスとは散策のことです
鼎談

廣川祐司氏

（北九州市立大学地域創生学群准教授）

井澤るり子氏

（美里フットパス協会）

永松 敦

（宮崎公立大学教授）

第2部

【時間】18:00～20:00

【場所】宮崎市 平和台公園

【集合場所】バス停 平和台公園レストハウス前

「ホタル・フットパス」

※ 地域のお宝発掘・発展・発信事業
（大宮地域自治区）と合同で行います。

平和台公園内で、ホタルを見ながら
実際にフットパスをします。

**第1部 第2部とも
飛び入り参加 大歓迎！**

参加希望の方は、下記へご連絡ください。

080-6406-5493(研究会専用電話)

メールアドレス

kojiki1300miyazaki@yahoo.co.jp（永松）

【主催】宮崎公立大学民俗学研究室

小雨決行

講座名		よみがえる江戸時代の宮崎	
実施期間 回 数	令和元年 6 月 22 日 (土)	10 時 00 分 ～12 時 00 分	全 1 回
会 場	(学内) 【 研究講義棟 501 中講義室 】		
講 師	宮崎公立大学 教授 大賀 郁夫		
共 催 者	なし		
後 援	なし		
その他スタッフ	なし		
受講者負担	(受講料) 【 0 円】		
配布資料等	レジュメ 2 枚		
募集定員	30 名		
(募集条件)	なし (高校生も可)		
参加者数	受講申込者： 11 名 受 講 者 数： 14 名		

【講座の内容】 江戸時代の宮崎郡を対象に、領主支配や村高の変遷や代官所や村役人などの支配組織を明らかにし、延岡藩領の飛地であった江戸時代の宮崎郡の概要を理解した。また絵図から街道・町屋・代官所などの位置を確認した。幕府領や佐土原・高鍋・飢肥・薩摩諸藩と境を接する宮崎郡は、代官や勘定人・手代・郷組などだけでは支配が難しかったため、郷足軽や村廻役を村々から多数取立てて常時廻村させ、治安の維持を図った。村々は4組に分けられ、組には大庄屋、村には庄屋がおかれ、代官支配をサポートした。大嶋組の上別府村に残された明細帳を使用して、土地構成・竈数・用水・特産物などを確認し、具体的な江戸時代の宮崎村々の概要を理解した。	【講座風景写真】 
---	--

【講師コメント】 できるだけ可視化できるようにレジュメとは別にパワーポイントを駆使して説明した。参加者はみな熱心に聴講されていた。講義終了後、質問も数人から出て、その熱心さが伝わった。一方的に話をしたので、次回は考える時間も持ちたいと思った。

受講
無料

令和元年度

宮崎公立大学自主講座

よみがえる江戸時代の宮崎

近世後期に描かれた絵図から宮崎市街地の位置を確認し、「明細帳」によって江戸時代の宮崎の土地柄・産物・生活環境等を復元することで郷土意識を高めてみませんか。

- 講 師 大賀郁夫 (宮崎公立大学教授)
- 日 時 令和元年6月22日(土) 10時～12時
- 会 場 宮崎公立大学 501中講義室(研究講義棟5階東側)
- 申込方法 氏名・住所・連絡のつく電話番号をFAX、メールまたは郵送

※当日参加も可能ですが、事前申込をお願いします。

申込後の案内はしませんので、当日会場にお越しください。

問合せ・申込先
宮崎公立大学地域研究センター
〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地
TEL 0985-20-4772
FAX 0985-20-4773
メールアドレス: mmurro@miyazaki-mu.ac.jp



★ 当日MMUプチオープンキャンパスが開催されます。(12:30～受付) 興味のある方はご参加ください。

※お申し込みの際にいただいた個人情報については適切に管理し、目的以外で使用することはありません。

講座名	ストレスと上手につきあう心理学	
実施期間 回 数	令和元年 7 月 20 日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分	全 1 回
会 場	（学内） 【 交流センター 多目的ホール 】	
講 師	宮崎公立大学 教授 川瀬 隆千	
共 催 者		
後 援		
その他スタッフ		
受講者負担	（受講料） 【 0 円】	
配布資料等	レジュメ・パワーポイント	
募集定員	100 名	
（募集条件）		
参加者数	受 講 者 数： 32 名	
【講座の内容】 はじめに厚生労働省の推奨するストレスチェックを行い、各自のストレスレベルをチェックした。 そして、「第1部 ストレスとは何か」において、セリエのストレス学説、ホームズとレイの精神医学的ストレス理論、ラザルスの心理学的ストレス理論について説明した。 その後の「第2部 ストレスと上手につき合う」では、ストレスプロセスとコーピング、ストレスプロセスを媒介するソーシャルサポートや楽観的説明スタイルについて説明し、ストレスと上手につき合う方法を考えた。 理論的な話だけではつまらないので、ストレスの少ない県はどこか、温泉に入ってストレスを解消するニホンザルの話、笑顔がストレスを解消する話なども取り入れて構成した。 最後に講座の感想を書いてもらった。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 高校生から 70 代まで幅広い年齢層の参加があった。講座に関する感想を求めたところ、「ストレス対処法がゲットできた」「ストレスと仲良く付き合う方法が分かった」「もっと詳しく教えてほしい」「ネガティブに考えがちな性格を見直す良い機会になった」「説明がわかりやすかった」「期待以上に充実した時間だった」などの感想が得られた。テレビなどでは多く取り上げられているが、ストレスやストレス対処に関するまとまった解説は少ないので、それらの情報を心理学の観点から提供できたことはよかったと思う。		

2019年度
宮崎公立大学
自主講座

ストレスと上手につきあう心理学

心理学の観点からストレスへの対処法を考えます

開催日 2019年 **7月20日(土)**

会場 **宮崎公立大学
交流センター 多目的ホール**

内容
13:00 開 場
13:30 講 演
川瀬 隆千(宮崎公立大学人文学部教授)
「ストレスと上手につきあう心理学」
15:15 質 疑 応 答
15:30 閉 会

- 参加費は無料です。
- 参加ご希望の方は地域研究センターまでお申し込みください。当日参加も可能です。

宮崎公立大学周辺図



交通案内

- 徒 歩：JR 宮崎駅から約 25 分
- 乗用車：JR 宮崎駅から約 5 分
- バ ス：宮崎交通バスにて宮交シティ(バスセンター)から約30分
(大学最寄りのバス停は「花殿町」「公立大学前」「江平一丁目」)

問い合わせ・申し込み先

宮崎公立大学 地域研究センター 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL: 0985-20-4772 FAX: 0985-20-4773 E-mail: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

講座名	教育機関・地域と連携した防災教育 (第9回ストリートウォッチング)	
実施期間 回数	授業・令和元年11月5日(火)、調査・令和元年11月12日(火) 8時00分～13時00分	全3回
会場	(授業) (調査) 【西池小学校 体育館】 【中央西自治区内】	
講師	宮崎公立大学 教授 辻 利則	
共催者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会、宮崎県ボランティア協会	
後援		
その他スタッフ		
受講者負担	(受講料) 【0円】	
配布資料等	調査マニュアル等	
募集定員	200名	
(募集条件)		
参加者数	小学校参加者：170名(小学生+教員) 地域の参加者：20名 学生：16名	
【講座の内容】 本活動は、2011年より開始し、今年で9回目になる。将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的としている。 小学生を対象に、教育機関と連携し、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて講座(38人程度の4クラスを2クラス同時にして2回)を行った。また、実際に地域の危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために調査(全体1回)した。調査は、地域住民、障がい者団体、そして本学の大学生を募り、最後に危険箇所、避難場所等を地図上に記入してまとめた。 本年度は、小学校からの希望で、16グループに分けて実施した。		
【講座風景写真】 		
【講師コメント】 本年度は、昨年度開発したストリートウォッチングの調査用のLINE BOTをさらに発展させた。調査で撮影した危険な場所の写真と位置をスマホ上に表示するだけでなく、撮影した写真等を調査後すぐに印刷できるようにした。これまで以上に調査後にまとめる地図がわかりやすくなった。また本年度は、中央西自治会連合会より子供たちに見守りに利用するKOTONカードを配付し、施設に立ち寄って子供たちの位置情報を保護者に送信する実証実験を行った。子供たちを地域で災害から守るツールとして非常に便利であることがわかった。 最後に、中央西地区の地域の関係者、西池小学校の皆さん、先生方、そして宮崎公立大学の学生の皆さんに感謝します。来年度も実施の予定です。		

講 座 名		若者の「多様なキャリア」の社会学	
実 施 期 間 回 数	令和元年 11 月 30 日(土) 14 時 00 分～17 時 00 分		全 1 回
会 場	(学内) 【 凌雲会館 共同研究室 2 】		
講 師	(職氏名) 岡山県立大学 講師 都島 梨紗 名古屋大学大学院 日本学術振興会 野村 駿		
共 催 者			
後 援			
その他スタッフ	学生アルバイト 2 名		
受講者負担	(受講料) 【 0 円】		
配布資料等	スライド資料		
募 集 定 員	50 名		
(募集条件)			
参 加 者 数	受講申込者： 4 名 受 講 者 数： 21 名		
【講座の内容】 「多様なキャリア」を教育社会学の視点から研究している講師 2 名を招き、標題の講座を行った。都島梨紗氏は「少年院を『卒業』したあと、どのような進路をたどるのか」、野村駿氏は「なぜ『将来の夢』を追い続けるのか: バンドマンがたどるキャリアから考える」というテーマで話題提供を行っていただいた。 各テーマにつき 1 時間の話題提供の後、フロアからの質問・意見に講師 2 名が応答する意見交換を 1 時間ほど行った。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 少人数だったが、参加者は非常に意欲的だった。テーマの内容からか、高校生や大学生を中心とした参加者であった。意見交換時には 50 を超える質問が寄せられ、講座全体は非常に充実していた。参加者からのコメントでは、少年院やバンドマンを対象とした研究が新鮮だったようで非常に好評だった。今後も研究領域の知見を市民の方々へ還元できるように、様々な企画に取り組んでいきたい。			

2019 年度宮崎公立大学自主講座

若者の「多様なキャリア」の社会学

どのような人生（キャリア）が「ふつう」でしょうか。高等学校を卒業後、会社員になることでしょうか。それとも大学や専門学校などへ進学後に、学んだことや資格を活かした仕事に就職することでしょうか。しかしながら現代社会には、こうした「ふつう」のキャリアを歩まない人たちが少なからず存在します。「多様なキャリア」を生きる人たちが経験する世界はどのようなものでしょうか。本講座では、「多様なキャリア」を教育社会学の視点から研究しているお二人を講師に招き、話題提供して頂きます。

2019 年 **11 月 30 日(土)**

【プログラム】

14:00～15:00

「少年院を『卒業』したあと、どのような進路をたどるのか」

都島梨紗（岡山県立大学）

15:00～16:00

「なぜ『将来の夢』を追い続けるのか：バンドマンがたどるキャリアから考える」

野村駿（名古屋大学大学院／日本学術振興会）

16:00～17:00

意見交換

申し込み・お問い合わせ先

宮崎公立大学 地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階

TEL: 0985-20-4772 FAX: 0985-20-4773

Mail: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

参加費

無料

対象・定員

高校生以上・50名程度

当日参加可

無料託児所あり

託児希望の方は、**お子様の氏名・年齢を明記**の上、**11月26日(火)**までにお申し込みください。

会場

宮崎公立大学 凌雲会館2階

下記地図参照



講座名		夏目漱石を読む	
実施期間・回数		令和2年 2月29日（土） 14時00分～16時00分	全 1 回
会 場		（学内）【 交流センター 多目的ホール 】	
講 師		（職氏名） 宮崎公立大学 准教授 楠田 剛士 米子工業高等専門学校 講師 藤本 晃嗣	
共催者			
後 援			
その他スタッフ			
受講者負担		（受講料） 【 0 円】	
配布資料等		レジュメ	
募集定員		100 名	
（募集条件）		特になし	
参加者数		受講申込者： 9 名 受講者数： 10 名	
【講座の内容】 はじめに楠田が、日本近代文学の夏目漱石について学ぶという自主企画の趣旨を説明した。続いて講師の紹介を行い、講座の流れを説明した。 次に藤本氏による講演が行われた。まず第一部は「夏目漱石の経歴と漱石像の変遷」と題し、知的エリートであることや30代後半から小説執筆を始めたことなど、経歴について確認した。続いて、読まれ方の変遷について、ユーモア作家としての初期評価が、聖人漱石、狂人漱石、暗い漱石、脱作家論と変化していくことが確認された。 休憩後の後半は、第二部として「「こころ」について」と題し、漱石の代表作である「こころ」を取り上げた。あらすじが紹介され、続いて従来の読まれ方が説明された。さらに、作中人物の関係性を再検討するという新しい研究視点についても語られた。 休憩時間中に参加者からの質問票を集め、講座の最後にそれらを紹介し、全体のまとめを行った。		【講座風景写真】 	
【講師コメント】 藤本氏の講演はレジュメとパワーポイントを使いながら、市民に分かりやすく説明するものであった。また参加者へ質問を投げかけながら、興味を持って聞いてもらう工夫もなされた。講座後の参加者のアンケートには、「漱石の読まれ方を時代ごとに 4 分類して説明して分かりやすかった」「レジュメもスライドも分かりやすく見やすく飽きずに受講することができた」「作品を読んでみたいと思った」などの感想があり、大変好評であった。新型コロナウイルス対策として入り口に消毒液を用意したり、マスクを用意したり、隣と離れて着席してもらうよう説明したりするなどの対応をとった。託児の利用が1件あったので、今後も参加しやすい環境を整えたい。			

宮崎公立大学自主講座（受講無料・託児あり）

夏目漱石を読む

夏目漱石はどのように読まれてきたのか——

「こころ」などを取り上げ、漱石の人と作品を読み解きます

講 師：藤本 晃嗣（米子工業高等専門学校講師・日本近現代文学）

楠田 剛士（企画・司会、宮崎公立大学准教授）

日 時：2020年2月29日（土）14時～16時（13時半開場）

会 場：宮崎公立大学 交流センター・多目的ホール

対象・定員：一般市民・100名

申込方法：氏名（ふりがな）と連絡のつく電話番号を、電話かFAXまたはメールで

地域研究センターまでお申し込みください。（当日参加も可能です）

締 切：2020年2月27日（木）

無料託児について

今回の自主講座では、交流センター内に無料託児所を準備します。託児希望の方は、お子様の氏名と年（月）齢を明記の上、2月20日（木）までにお申し込みください。

問合せ 宮崎公立大学地域研究センター 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地

申込先 電話：0985-20-4772 FAX：0985-20-4773 メール：mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

（この用紙はFAXのお申し込みにお使いください。）

氏 名	ふりがな	託児 申込	お子様の氏名
連絡のつく電話番号			お子様の年（月）齢 歳

※お申し込みの際にいただいた個人情報については適切に管理し、目的以外で使用することはありません。

令和元(2019)年度 小 中 学 生 講 座

講 座 名	講 師	目 的	日 程
「楽しく学べる 小学 5・6 年生初 級英語教室」	宮崎公立大学 准教授 スコット ビンガム Scott Bingham	広く地域に開かれた大学として 地域の小学生の健全育成、並びに 英語教育への支援を行う。	令和元年 7 月 23 日 (火) 7 月 26 日 (金) 7 月 27 日 (土) 7 月 29 日 (月) A パート 09:00～10:30 B パート 10:40～12:10

講座名	令和元年度「楽しく学べる小学5・6年生初級英語教室」	
実施期間・回数	令和元年 7月23日(火)、26日(金)、27日(土)、29日(月) Aパート 09時00分～10時30分(全4回) Bパート 10時40分～12時10分(全4回)	計 8回
会 場	凌雲会館 共同研究室2	
講 師	Scott Bingham 准教授	
その他スタッフ		
受講者負担	受講料：無料	
募集定員	A・B 各パート 15名（多い場合は抽選）	
(募集条件)	小学5・6年生	
参加者数	受講申込者： 23名 受講者数： 23名（Aパート13名・Bパート10名） 受講者のべ総数・・・（Aパート48名・Bパート33名 合計81名）	

【講座風景写真】



【講座の内容等】

- ・ 各パートとも4～5名でグループ編成し、名前のローマ字での表し方から始まり、カードを使い日常生活単語の発音方法など初歩的な内容を学習した。
- ・ 最初は緊張している子が多かったが、ゲームを通しての発音の練習で盛り上がり、すぐに先生や他の子にも慣れ、自分から大きな声で発言する積極的な姿勢が見られた。
- ・ 講師は英語と日本語を交えて進めていき、毎回、前回の復習を行ってから、新しい項目を学習していった。
- ・ スポーツ等のクラブ活動で休む小学生もいたが、毎回たくさんの小学生が参加してくれた。

【受講生アンケートより】

- ・ とても楽しく英語が学べたので良かったです。
- ・ 今回のことで苦手だった英語が好きになりました。また、やりたいのですが、来年は中学なので中学で頑張ります。中学で英語を楽しめるきっかけになりました。
- ・ 先生も面白くて友達がたくさんできて嬉しかったです。たった4回だから15回あっても少ないぐらい楽しかったです。
- ・ 初めて会った人達とゲームなどの遊びでしゃべれるようになった。

宮崎公立大学主催 - 小学5・6年生英語初心者対象 -
「楽しく学べる小学5・6年生初級英語教室」

初歩的な内容です。アメリカ人の先生、大学生と一緒に、
楽しく勉強しましょう!! **受講料は無料**ですので、どしどしご応募ください。
(A・Bパートとも全4回の講座です)

★プログラム Aパート(全4回)とBパート(全4回)は同じ内容です。

Aパート (全4回)	7月23日(火)、7月26日(金) 7月27日(土)、7月29日(月)	時 間 9:00~10:30	講師: 石井・セシリア先生 (宮崎公立大学・准教授)
Bパート (全4回)	7月23日(火)、7月26日(金) 7月27日(土)、7月29日(月)	時 間 10:40~12:10	講師: 石井・セシリア先生 (宮崎公立大学・准教授)

★場 所 宮崎公立大学 凌雲会館2階 共同研究室2(宮崎市船塚1丁目58)

★対象・定員 小学5・6年生・各パート15人程度(多い場合は抽選)

★受講料 無 料

★申込方法 FAXの場合は、この申込書を20-4773(地域研究センター)まで送信してください。

はがき・Eメールの場合は、下記の申込書と同じ内容を記入し、

●住所 〒880-8520(住所不要) 宮崎公立大学 地域研究センター

●Eメールアドレス: mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

「小学生英語教室」係まで送ってください。(締切日は7月10日(水)必着です)

※結果は、文書にて連絡します。

★問い合わせ先 宮崎公立大学 地域研究センター TEL 20-4772

「楽しく学べる小学5・6年生初級英語教室」 申込書

希望パート ○をつけてください	Aパート(全4回) 9:00~10:30	Bパート(全4回) 10:40~12:10		どちらでも可
学 校 名	小学校		学 年	年 生
ふりがな	性 別		ふりがな	
本人の名称	男 女		保護者氏名	
住 所	〒			
連絡のつく 電話番号				

※申込いただいた個人情報の取扱いについては、適正に管理し本教室の運営目的以外には使用いたしません。

後援 宮崎市教育委員会

令和元(2019)年度 語 学 講 座

No.	講 座 名	講 師	講 座 内 容	日 程
1	英 語 中 級	宮崎公立大学 准教授 スコットビンガム Scott Bingham	前後期各 10 回、計 20 回開講。 英語の基礎、簡単な会話ができる人 を対象に受講者を募集。 募集定員 40 名。 各回 5～6 名のグループに分かれ て、テーマを決めて英語だけでディ スカッションを行い、講師も参加し て助言する。また、インターネット を利用して外国の文化やトピック を紹介、異文化理解をすすめる。	令和元年 5 月 14 日～ 12 月 10 日 毎週火曜日 18 時～ 19 時 30 分
2	中国語初級	宮崎公立大学 日中文化 交流促進会 (学内サークル)	前後期各 10 回、計 20 回開講。 中国語を初めて学ぶ人を対象に受 講者を募集。 募集定員 30 名。 留学経験をもつ学生や中国からの 留学生、中国語を学ぶ学生たちが講 師役になり、グループに分かれて発 音の基礎から簡単な会話が理解で きるまでを学ぶ。	令和元年 5 月 16 日～ 12 月 5 日 毎週木曜日 18 時～ 19 時 30 分
3	韓国語初級	宮崎公立大学 韓国文化研究部 (学内部活)	前後期 10 回、計 20 回開講。 韓国語を初めて学ぶ人を対象に受 講者を募集。 募集定員 30 名。 留学経験をもつ学生や韓国からの 留学生、韓国語を学ぶ学生たちが講 師役になり、グループに分かれて発 音の基礎から簡単な会話が理解で きるまでを学ぶ。	令和元年 5 月 13 日～ 12 月 16 日 毎週月曜日 18 時～ 19 時 30 分

講座名	英 語 中 級	
実施期間等	令和元年 5 月 14 日 ～ 令和元年 12 月 10 日 ＊ 毎週火曜日 18 時 00 分 ～ 19 時 30 分	全 20 回
会 場	交流センター 多目的ホール	
講 師	宮崎公立大学 准教授 Scott Bingham (スコット・ビンガム)	
受講者負担	受講料：無料	
募集定員	75 名 (応募条件 高校生以上)	
受講者数	75 名 ＊応募者全員受講 受講者延べ数：798 名 (前期：493 名 後期：305 名)	
【講座風景写真】  講座会場  英語圏の文化やトピックスを受講生に紹介		
【講座内容】 ・ 英語の基礎があつて、かつ簡単な英会話ができる人を対象に受講生を募集。 ・ トピックスやテーマを提示、英語だけでそれをグループ・ディスカッションします。 ・ 講師は各グループのディスカッションに参加して、助言や指導を行います。		
【受講生からのコメント】 ・ 楽しく理解しやすいビンガム先生の英語に触れられて、大変有意義な時間を過ごせて幸せでした。 ・ 毎回、楽しく考えさせられる Topics を出して下さって面白かったです。 ・ 私がいつも遅れて授業に参加しても快く受け入れて下さってありがとうございました。		

講座名	中国語初級	
実施期間等	令和元年5月16日～令和元年12月5日 ＊毎週木曜日 18時00分～19時30分	全20回
会場	交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 日中文化交流促進会（学生サークル）	
受講者負担	受講料：無料	
募集定員	36名（応募条件 高校生以上）	
受講者数	30名 ＊抽選 受講者延べ数：351名（前期：213名 後期：138名）	
【講座風景写真】  学生講師あいさつ  講座の風景		
【講座内容】 ・ 留学経験を持つ学生や留学生が講師役になって受講生を指導。（運営は学生サークル） ・ 中国語が初めての人を対象に受講生を募集、講座では発音から簡単な会話までを学ぶ。 ・ 中国からの留学生や留学経験を持つ学生を各テーブルに配置し、グループ学習で特に発音を確認しあいながら反復して学習を進める。 ・ 中国の伝統行事や話題・風俗などを講座で紹介、学習を通して相互理解や国際交流を促進する。		
【受講生からのコメント】 ・ 本当に時間を割いて、丁寧に教えて下さいました。一人一人の学生さんが声掛けして下さい心強かったです。 ・ 今回も担当の学生さんが一所懸命に教えて下さったのでとても良かった。毎回、文化講座で食、観光地の紹介があり、それも楽しみで参加していました。 ・ 留学生の発音と唇の動きは分かりやすかった。		

講座名	韓国語初級	
実施期間等	令和元年5月13日～令和元年12月16日 ＊毎週月曜日 18時00分～19時30分	全20回
会場	交流センター 多目的ホール	
講師	宮崎公立大学 韓国文化研究部（学生部活）	
受講者負担	受講料：無料	
募集定員	55名（応募条件 高校生以上）	
受講者数	30名 ＊抽選 受講者延べ数：364名（前期：221名 後期：143名）	
【講座風景写真】  講師あいさつ  講座の風景		
【講座内容】 ・ 基礎から簡単な会話までをめざす初級講座で講師役を学生が担当。（運営は学生サークル） ・ ハングル語がはじめての人を対象に受講生を募集、韓国の短期研修生も講座に参加。 ・ 講座の中で韓国の伝統や文化を紹介、相互理解や国際交流を促進する。 ・ 5～6名のグループに分かれ、発音やことばの意味を反復・確認しあいながら学ぶ。 ・ 正しい発音の仕方や言い回しなどを留学生からじかに聞けるように努める。		
【受講生からのコメント】 ・ 発音の仕方とか活用の方法など、丁寧に指導していただき前期、後期の学生さんどちらも優しい対応で感謝しています。 ・ 語学講座と文化講座をして下さったので、韓国についてたくさん知ることが出来て良かったです。学生さんの文化講座はすごく参考になるものばかりで有難かったです。 ・ 独学で勉強していた範囲が概ねだったので、確認・復習を兼ねることができて良かったです。韓国語に触れる機会は大事なのでとても有難かったです。		

宮崎公立大学からのお知らせ

2019年度

語学講座



講座・講師名	講座内容及び募集対象	曜日	講座日程
韓国語初級 韓国文化研究部 (学生)	韓国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。 <u>(初心者に限る)</u> ※ 一般市民(高校生以上) 定員30名 受講料無料	月曜日	5月13日(月)～ 18時00分～19時30分 全20回 (8月除く)
英語中級 スコット ピンガム (准教授)	講師から出された課題を英語で話し合います。 <u>(基本的な英会話や読み方のできる方)</u> ※ 一般市民(高校生以上) 定員40名 受講料無料	火曜日	5月14日(火)～ 18時00分～19時30分 全20回 (8・9月除く)
中国語初級 日中文化交流促進会 (学生)	中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。 <u>(初心者に限る)</u> ※ 一般市民(高校生以上) 定員30名 受講料無料	木曜日	5月16日(木)～ 18時00分～19時30分 全20回 (8・9月除く)

応募要項

- ①希望講座、②郵便番号・住所、③氏名・年齢、
④連絡がとれる電話番号

を記入しハガキまたはFAXで下記宛先へ

(受講可否の結果を後日郵送します)

宛先 お問合せ先

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地

宮崎公立大学 地域研究センター

☎ 0985-20-4772

FAX番号 0985-20-4773

応募締切

2019年4月22日(月)必着

※ハガキまたはFAXにご記入いただいた個人情報の取扱いについては、適正に管理し語学講座の運営目的以外には使用いたしません。

※応募者が多数の場合は抽選になります。

ハガキの記入例

62円切手	〒880-8520 宮崎公立大学 地域研究センター 語学講座係	宮崎市船塚1丁目58番地
		① 希望講座名
		② 郵便番号・住所
		③ 氏名・年齢
		④ 連絡がとれる電話番号

FAX用(このままお使い下さい)

FAX番号 0985-20-4773

希望講座				氏名		
住所	〒					
年齢	歳			連絡がとれる電話番号		

このたびは、宮崎公立大学語学講座を受講いただき、ありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、ご意見やご感想をお聞かせください。

以下の質問について記入をよろしくお願いします。（該当項目を○でお囲みください。）

質問1 あなたの年齢を教えてください。

※ 20歳未満 ※ 20～39歳 ※ 40～59歳 ※ 60～79歳 ※ 80歳以上

質問2 語学講座の受講状況について教えてください。

① 今回の語学講座は何回目ですか？

※はじめて ※2回目 ※（ ）回目

② 語学講座以外で本学の実施事業へ参加したことがありますか？（複数回答可）

※ある（事業名：定期公開講座・自主講座・開放授業・その他） ※ない

その他：（ ）←該当があれば事業名をお書きください

質問3 この講座をどのような手段でお知りになりましたか。（複数回答可）

※市広報 ※大学のホームページ ※公民館等のチラシ案内 ※友人・知人からの情報

※その他（ ）

質問4 受講の動機・目的について教えてください。（複数回答可）

※余暇の活用 ※外国旅行がしたい ※語学力の向上 ※何か学習したかった

※無料の講座だから ※同じ目的を持つ人たちとの交流

※その他（ ）

質問5 今回の語学講座の感想をお聞かせください。

① 講座の内容について

※よく理解できた ※ほぼ理解できた ※わかりにくかった

② 講座のすすめ方について

※ちょうどよかった ※早かった ※遅かった

③ 語学レベルについて

※期待どおりだった ※もう少しレベルを上げてほしい ※もう少しレベルを下げた方がよい

講座受講の感想や担当講師（学生）へのひと言があればご記入ください。

※自由意見（本学の実施事業に対するご意見やご要望があればご記入ください。）

※宮崎公立大学では、地域の方向けに様々な講座を開催しています。（ホームページにてご案内しております。）

アンケート集計結果 （回答数 56 件）

【質問 1】年齢

20 歳未満	20～39 歳	40～59 歳	60～79 歳	80 歳以上	無記入
9 (16. 1%)	4 (7. 1%)	13 (23. 2%)	29 (51. 8%)	0 (0. 0%)	1 (1. 8%)

【質問 2】受講状況

①受講回数

はじめて	2 回目	3 回目以上	無記入
33 (58. 9%)	9 (16. 1%)	13 (23. 2%)	1 (1. 8%)

②語学講座以外への参加（参加講座は複数回答：19 件）

ない	ある	公開講座 (3) 自主講座 (2) 開放授業 (9) その他 (5)
40 (71. 4%)	16 (28. 6%)	

【質問 3】講座情報の入手先（複数回答：64 件）

市広報	大学 HP	公民館等広報	友人・知人	その他
18 (28. 1%)	12 (18. 8%)	12 (18. 8%)	17 (26. 5%)	5 (7. 8%)

【質問 4】受講の動機・目的（複数回答：104 件）

余暇の活用	外国旅行	語学力向上	何か学習	無料講座	講座生交流	その他
11 (10. 6%)	8 (7. 7%)	38 (36. 5%)	12 (11. 5%)	17 (16. 4%)	11 (10. 6%)	7 (6. 7%)

【質問 5】今回受講の感想

① 講座内容の理解

よく理解できた	ほぼ理解できた	わかりにくかった	無記入
21 (37. 5%)	31 (55. 3%)	2 (3. 6%)	2 (3. 6%)

②講座のすすめ方

ちょうどよい	早かった	遅かった	無記入
47 (83. 9%)	7 (12. 5%)	0 (0. 0%)	2 (3. 6%)

③語学レベル

期待どおり	レベルを上げる	レベルを下げる	無記入
36 (64. 3%)	9 (16. 1%)	4 (7. 1%)	7 (12. 5%)

アンケート集計結果 （回答数 29 件）

【質問 1】年齢

20 歳未満	20～39 歳	40～59 歳	60～79 歳	80 歳以上	無記入
3 (10. 3%)	3 (10. 3%)	4 (13. 8%)	18 (62. 1%)	0 (0. 0%)	1 (3. 5%)

【質問 2】受講状況

①受講回数

はじめて	2 回目	3 回目以上	無記入
11 (37. 9%)	6 (20. 7%)	11 (37. 9%)	1 (3. 5%)

② 語学講座以外への参加（参加講座は複数回答：15 件）

ない	ある	公開講座 (2) 自主講座 (1) 開放授業 (8) その他 (4)
17 (58. 6%)	12 (41. 4%)	

【質問 3】講座情報の入手先（複数回答：34 件）

市広報	大学 HP	公民館等広報	友人・知人	その他
12 (35. 3%)	7 (20. 6%)	5 (14. 7%)	8 (23. 5%)	2 (5. 9%)

【質問 4】受講の動機・目的（複数回答：51 件）

余暇の活用	外国旅行	語学力向上	何か学習	無料講座	講座生交流	その他
7 (13. 7%)	3 (5. 9%)	22 (43. 1%)	3 (5. 9%)	9 (17. 7%)	7 (13. 7%)	0 (0. 0%)

【質問 5】今回受講の感想

①講座内容の理解

よく理解できた	ほぼ理解できた	わかりにくかった	無記入
11 (37. 9%)	16 (55. 2%)	0 (0. 0%)	2 (6. 9%)

②講座のすすめ方

ちょうどよい	早かった	遅かった	無記入
26 (89. 7%)	2 (6. 9%)	0 (0. 0%)	1 (3. 4%)

③語学レベル

期待どおり	レベルを上げる	レベルを下げる	無記入
17 (58. 6%)	6 (20. 7%)	4 (13. 8%)	2 (6. 9%)

※受講感想・講師へのひと言

- ※ 今までありがとうございました。
- ※ 語学力の向上とスコット先生のユーモアで、とても有意義な時間を送ることが出来ました。
- ※ Thank you.
- ※ 楽しく理解しやすいピンガム先生の英語に触れられて、大変有意義な時間を過ごせて幸せでした。
- ※ 私がいつも遅れて授業に参加しても快く受け入れて下さってありがとうございました。
- ※ 毎回、楽しく考えさせられる Topics を出して下さって面白かったです。
- ※ とてもフレンドリーな先生で毎回楽しむことが出来ました。内容も毎回タイムリーな話題で為になりました。来月からマーシャルで英語を使う仕事に就きますが、いろんな面で役立つことと思います。スコット先生に感謝、感謝です。
- ※ 私にとってレベルの高いクラスでしたが、先生は楽しく、お話も少しは理解できたかなと思います。もっと学んでみたいと思いました。
- ※ 講師のスコット先生はとても面白く丁寧に教えて下さったので、毎回楽しみだった。話題のプリントが大変ためになる内容だった。
- ※ 来年も可能であれば、この講座を受講したいと思いますが、来年は前期・後期で句動詞の基本表現を会話表現としてやっていただけたらと思っています。
- ※ 語彙力や表現力（例えばイディオムの習得）がアップする内容を入れてもらいたい。
- ※ 講師には満足しています。参加者の方々はもう少し英語学習を日頃からして欲しい。
- ※ 熱心に講座を進めて頂き感謝します。
- ※ 貴重な時間を過ごせてワクワクしました。
- ※ Thank you for your class!

※自由意見

- ※ もっと参加しやすい時間帯に講座を開講していただきたいと思いました。これからも、公立大らしさを前面に出して地域に開かれた大学であり続けて欲しいと思います。
- ※ 6時だと少々早いのですが、お仕事されていない方も多くいらっしゃるのでは、間をとってこれくらいなのではないでしょうか。休んでしまうと次の予習ができないので、何らかの対策をして欲しい。
- ※ I want to have more chance to speak.
- ※ 韓国語初級も申し込みしましたが満員でした。残念。
- ※ 先生方には時間的制約をかけるのですが、なるべく多くの分野での講座があるといいなと思います。
- ※ だんだん受講者が減るようだが都合がつく人は続けているので、今後も是非開講して欲しい。
- ※ 大変、為になっています。有難うございます。今後も続けていただければ嬉しいです。
- ※ 中国語講座の中級は開催されないでしょうか。
- ※ 外国人を交えての英語でのチャート年間 20 回位 or 以上開いて欲しいと思います。
- ※ このクラスがずっと続きますように。

アンケート集計結果 （回答数 13 件）

【質問 1】年齢

20 歳未満	20～39 歳	40～59 歳	60～79 歳	80 歳以上	無記入
1 (7. 7%)	1 (7. 7%)	5 (38. 5%)	6 (46. 1%)	0 (0. 0%)	0 (0. 0%)

【質問 2】受講状況

①受講回数

はじめて	2 回目	3 回目以上	無記入
11 (84. 6%)	2 (15. 4%)	0 (0. 0%)	0 (0. 0%)

②語学講座以外への参加

ない	ある	公開講座 (1) 自主講座 (1) 開放授業 (1) その他 (1)
9 (69. 2%)	4 (30. 8%)	

【質問 3】講座情報の入手先（複数回答：14 件）

市広報	大学 HP	公民館等広報	友人・知人	その他
3 (21. 4%)	0 (0. 0%)	6 (42. 9%)	2 (14. 3%)	3 (21. 4%)

【質問 4】受講の動機・目的（複数回答：24 件）

余暇の活用	外国旅行	語学力向上	何か学習	無料講座	講座生交流	その他
2 (8. 3%)	2 (8. 3%)	7 (29. 2%)	5 (20. 8%)	4 (16. 7%)	1 (4. 2%)	3 (12. 5%)

【質問 5】今回受講の感想

①講座内容の理解

よく理解できた	ほぼ理解できた	わかりにくかった	無記入
6 (46. 2%)	6 (46. 2%)	1 (7. 6%)	0 (0. 0%)

②講座のすすめ方

ちょうどよい	早かった	遅かった	無記入
10 (76. 9%)	3 (23. 1%)	0 (0. 0%)	0 (0. 0%)

③語学レベル

期待どおり	レベルを上げる	レベルを下げる	無記入
10 (76. 9%)	2 (15. 4%)	0 (0. 0%)	1 (7. 7%)

※受講感想・講師へのひと言

- ※ 中国語は難しかったけど、楽しく勉強できました。文化講座も面白かったです。中国に行きたくなりました。丁寧に教えてくださりありがとうございました。
- ※ 学生の語学力の高さに感心しました。
- ※ 学生の皆さんに一生懸命に教えてもらいました。とても感謝しています。謝謝大家。
- ※ 丁寧に教えていただきました。
- ※ とても良い講座でした。楽しく参加できました。
- ※ いつも有難うございます。
- ※ 本当に時間を割いて、丁寧に教えて下さいました。
一人一人の学生さんが声掛けして下さい心強かったです。
先生を始め学生の皆さん、留学生の皆々様に心から感謝します。有難うございました。
- ※ 留学生の発音と唇の動きは分かりやすかった。
- ※ 今回も担当の学生さんが一所懸命に教えて下さったのでとても良かった。
毎回、文化講座で食、観光地の紹介があり、それも楽しみで参加していました。
まだまだ、知らない所が沢山あり、民族衣飾もとてもきれいです。
- ※ わからないところを丁寧に説明いただき、とても勉強になりました。
ありがとうございました。
- ※ 後期において単語の発音をもうちょっと訓練してほしかった。
とにかく、発音が難しいと思いました。
- ※ もっとレベルを上げた講座にしてほしい。

※自由意見

- ※ 良い経験になりました。
- ※ 語学講座は参加していきたいと思います。
- ※ 楽しく学べました。私の実力ではまだまだです。再挑戦したいですね。
- ※ この講座これからも続けて欲しいです。来年も参加したいです。
- ※ 来年度も是非再度、実施して欲しい。再度、受講したいと思います。
- ※ 有難うございました。又の機会があれば、よろしくお願いします。

アンケート集計結果 （回答数 14 件）

【質問 1】年齢

20 歳未満	20～39 歳	40～59 歳	60～79 歳	80 歳以上	無記入
5 (35. 7%)	0 (0. 0%)	4 (28. 6%)	5 (35. 7%)	0 (0. 0%)	0 (0. 0%)

【質問 2】受講状況

①受講回数

はじめて	2 回目	3 回目以上
11 (78. 6%)	1 (7. 1%)	2 (14. 3%)

②語学講座以外への参加

ない	ある	公開講座 (0) 自主講座 (0) 開放授業 (0) その他 (0)
14 (100%)	0 (0. 0%)	

【質問 3】講座情報の入手先（複数回答：16 件）

市広報	大学 HP	公民館等広報	友人・知人	その他
3 (18. 8%)	5 (31. 2%)	1 (6. 2%)	7 (43. 8%)	0 (0. 0%)

【質問 4】受講の動機・目的（複数回答：29 件）

余暇の活用	外国旅行	語学力向上	何か学習	無料講座	講座生交流	その他
2 (6. 9%)	3 (10. 3%)	9 (31. 1%)	4 (13. 8%)	4 (13. 8%)	3 (10. 3%)	4 (13. 8%)

【質問 5】今回受講の感想

①講座内容の理解

よく理解できた	ほぼ理解できた	わかりにくかった	無記入
4 (28. 6%)	9 (64. 3%)	1 (7. 1%)	0 (0. 0%)

②講座のすすめ方

ちょうどよい	早かった	遅かった	無記入
11 (78. 6%)	2 (14. 3%)	0 (0. 0%)	1 (7. 1%)

③ 語学レベル

期待どおり	レベルを上げる	レベルを下げる	無記入
9 (64. 3%)	1 (7. 1%)	0 (0. 0%)	4 (28. 6%)

※受講感想・講師へのひと言

- ※ 語学講座と文化講座をして下さったので、韓国についてたくさん知ることが出来て良かったです。学生さんの文化講座はすごく参考になるものばかりで有難かったです。
- ※ 毎回の授業がとても楽しかったです。私は進学先の専攻授業で韓国語をとろうと思います。とても良い経験となりました。ありがとうございました。
- ※ 学生さんたちが丁寧に教えて下さったので、楽しく分かりやすく勉強することができました。ありがとうございました。
- ※ とても楽しく受講できました。5月からあっという間でとても短く感じました。7か月間ありがとうございました。
- ※ 独学で勉強していた範囲が概ねだったので、確認・復習を兼ねることができて良かったです。韓国語に触れる機会は大事なのでとても有難かったです。韓国の色々な話を聞けるのもとても楽しかったです。この先も、もっと教えてほしかったです。有難うございました。
- ※ 熱心に優しく教えていただいて感謝しています。大学生と交流でき嬉しかったです。韓国に少し近づく事ができ、韓国語講座が何よりも楽しかったです。
- ※ 思っていた学生さんのイメージとは違って、優しくて可愛らしく、驕ることなく一生懸命分からないところを教えて下さいました。嫌な顔をせず笑顔で接して下さいました事に感謝します。教えることがとても上手だと思いました。
- ※ 個人差はありましたが、みなさん一年間ありがとうございました。
- ※ 大変親切にしてくださいました。本当にありがとうございました。今日は仕事で欠席している娘も本当に感謝していて、くれぐれもよろしくとの事でした。楽しい時間でした。
- ※ 発音の仕方とか活用の方法など、丁寧に指導していただき前期、後期の学生さんどちらも優しい対応で感謝しています。
- ※ 学生さんは優しく教えて下さったけど、発音とか全くわからないので説明の時も同じ言葉を何度も（その場で）言ってほしかったです。
- ※ 少しは分かったような気がします。是非、韓国旅行ぶっつけ本番で行ってみたいです。
- ※ 親切に教えて頂きました。後半は少し質問が出来、丁寧に分かるよう教えて頂きました。

※自由意見

- ※ 分かりやすく、例文や文法などの説明をして下さったので韓国語の能力が上がりました。ありがとうございました。
- ※ また、このような韓国語講座を開催してもらえたら嬉しいです。韓国語だけでなく、韓国の色々な事を知ることができてホントに良かったです。また、学びたいです。ありがとうございました。
- ※ 韓国語の中級クラスもお願いします。
- ※ 次の回に初心者でなくても参加出来ればしたいです。
- ※ 自主講座のような延長講座を開いてほしいです。

令和元(2019)年度 開 放 授 業

講 座 名	担 当 講 師	概 要	期 間
前 期 開放授業	教 授 川瀬 隆千 教 授 大賀 郁夫 教 授 福田 稔 教 授 田宮 昌子 准教授 倉 真一 准教授 ダッカー・ネイサン 助 教 村上 幸大郎 助 教 清水 習 助 教 市村 陽亮	宮崎公立大学の講義の一部を地域住民の皆様に公開し、学生と一緒に授業を受けることができる取り組み。	平成 31 年 4 月～ 令和元年 7 月
後 期 開放授業	教 授 辻 利則 教 授 田中 宏明 教 授 山口 裕司 教 授 福田 稔 教 授 李 善愛 准教授 梅津 顕一郎 准教授 倉 真一 准教授 森津 千尋 准教授 ダッカー・ネイサン 准教授 楠田 剛士 助 教 川瀬 和也 助 教 村上 幸大郎 助 教 清水 習 助 教 市村 陽亮	宮崎公立大学の講義の一部を地域住民の皆様に公開し、学生と一緒に授業を受けることができる取り組み。	令和元年 9 月～ 令和 2 年 1 月

開放授業　　＜　令和元(2019)年度　前期　＞			
申込期間	平成 31 年 3 月 1 日 (金)　～　平成 31 年 3 月 20 日 (水)		
授業期間	平成 31 年 4 月　～　令和元年 7 月		
応募状況	【申　込　件　数】　60 件 (科目)		
	【申込者合計】　49 名		
受講状況	【受　講　者　数】　39 名		
	【受　講　件　数】　43 件 (科目)		
	【受講者の年齢分布】 ＜20 代：0 名　30 代：1 名　40 代：1 名　50 代：2 名　60 代：24 名 70 代：10 名　80 代：4 名　無記入：な 1 名＞		
	【修了証授与者】 15 回の講義のうち 10 回以上の出席：39 名 (42 科目)		
受　講　料	1 科目 5,000 円 (15 回の講義)		
オリエンテーション	平成 31 年 4 月 3 日 (水)　11:00～12:00　凌雲会館 2 階　共同研究室 1・2		
開　講　科　目　一　覧			
科　目　名	担当教員	定　員	受講者数
1　現代英文法	教　授　福田　稔	5	4
2　英米文学概論	助　教　村上　幸一郎	5	4
3　歴史学	教　授　大賀　郁夫	5	5
4　異文化コミュニケーション	准教授　ダッカー・ネイサン	3	2
5　中国文化論	教　授　田宮　昌子	5	3
6　英語史	教　授　福田　稔	5	3
7　社会心理学	教　授　川瀬　隆千	5	5
8　社会学	准教授　倉　真一	5	10
9　経済学	助　教　市村　陽亮	5	2
10　政治経済学	助　教　清水　習	5	5
		(計 48 名)	(のべ 43 名)





＜オリエンテーション＞　平成 31 年 4 月 3 日 (水) (於：共同研究室 1・2)

宮崎公立大学 平成31年度 前期

開放授業 受講生募集

募集
期間

3/1
(金)

～

3/20
(水)

※必着

本学では、学生と一緒に授業を受講する「開放授業」を実施しています。是非この機会に、身近な学びの場を活用してみませんか。

実施要領

- 授業期間 平成31年4月～平成31年7月
(1科目につき、週1回・全15回の講義)
- 場 所 宮崎公立大学
(宮崎市船塚1丁目1番地2)
- 受講資格 18歳以上の方
- 定 員 各科目若干名(応募多数の場合は抽選)
- 受 講 料 1科目 5,000円
(別途、テキスト代がかかる場合あり)
- 申込方法 募集要項にある申込書を持参、郵送またはFAXで申込
- オリエンテーション 4月3日(水)を予定しています。

対象科目

- | | |
|--------------------------------|--|
| ☐ 現代英文法 | ☐ 英米文学概論 |
| ☐ 歴史学 | ☐ 異文化間コミュニケーション |
| ☐ 中国文化論 | ☐ 英語史 |
| ☐ 社会心理学 | ☐ 社会学 |
| ☐ 経営学 | ☐ 政治経済学 |

※各科目の定員等、詳細については募集要項に掲載しております。

募集要項請求について

- 募集要項は、**3月1日(金)**から、宮崎公立大学地域研究センター(凌雲会館2階)、事務局企画総務課(管理棟1階)で配布します。また、宮崎公立大学ホームページからダウンロードすることもできます。
<http://www.miyazaki-mu.ac.jp/>
- 郵送にて募集要項を請求の方は、郵便番号・住所・氏名を明記の上、140円切手を貼った返信用封筒(角型2号・A4用紙が入るサイズ)を同封し、宮崎公立大学地域研究センターあて「開放授業募集要項請求」と朱書きし、お申し込みください。

- ✓ お申込みされる際は、必ず「宮崎公立大学 平成31年度前期開放授業 募集要項」をよくお読みください。
- ✓ ご不明な点などございましたら、下記地域研究センターまでお問合せください。

宮崎公立大学 地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL:0985-20-4772 FAX:0985-20-4773
受付時間:平日9時～17時

開放授業　　＜　令和元(2019)年度　後期　＞				
申込期間	令和元年7月1日（月）　～　令和元年7月26日（金）			
授業期間	令和元年9月　～　令和2年1月			
応募状況	【申　込　件　数】　59件（科目）			
	【申込者合計】　44名			
受講状況	【受　講　者　数】　40名			
	【受　講　件　数】　50件（科目）			
	【受講者の年齢分布】 <20代：1名　30代：1名　40代：1名50代：2名　60代：22名 70代：10名　80代：3名　無記入：なし>			
	【修了証授与者】15回の講義のうち10回以上の出席：29名（39科目）			
受　講　料	1科目5,000円（15回の講義）			
オリエンテーション	令和元年9月12日（木）　11:00～12:00　凌雲会館2階　共同研究室1・2			
開　講　科　目　一　覧				
科　目　名	担当教員		定　員	受講者数
1　日本文学	准教授	楠田　剛士	5	5
2　英語学概論	教　授	福田　稔	5	3
3　文化人類学	教　授	李　善愛	5	9
4　現代イギリス小説	助　教	村上　幸太郎	5	4
5　倫理学	助　教	川瀬　和也	5	5
6　多文化主義	准教授	ダッカー・ネサン	3	1
7　情報社会学	准教授	梅津　顕一郎	3	2
8　広告文化論	准教授	森津　千尋	3	3
9　国際社会学	准教授	倉　真一	5	3
10　国際政治学	教　授	田中　宏明	5	1
11　政治学	教　授	山口　裕司	5	4
12　国際経営論	助　教	市村　陽亮	5	5
13　行政論	助　教	清水　習	5	4
14　自然災害と防災・減災	教　授	辻　利則	5	1
			（計64名）	（のべ50名）



<オリエンテーション> 令和元年9月12日(木)(於:共同研究室1・2)



実施要領

- 授業期間 令和元年9月～令和2年1月
(1科目につき、週1回・全15回の講義)
- 場 所 宮崎公立大学 (宮崎市船塚1-1-2)
- 受講資格 18歳以上の方
- 定 員 各科目若干名
(応募多数の場合は抽選)
- 受講料 1科目 5,000円
(別途、テキスト代がかかる場合あり)
- 申込方法 募集要項にある申込書を持参、郵送
またはFAXで申込
- 募集期間 令和元年7月1日(月)～
7月26日(金)

対象科目

- | | |
|-----------------------------------|--|
| ☐ 日本文学 | ☐ 広告文化論 |
| ☐ 英語学概論 | ☐ 国際社会学 |
| ☐ 文化人類学 | ☐ 国際政治学 |
| ☐ 現代イギリス小説 | ☐ 政治学 |
| ☐ 倫理学 | ☐ 国際経営論 |
| ☐ 多文化主義 | ☐ 行政論 |
| ☐ 情報社会学 | ☐ 自然災害と防災・減災
(防災士養成講座) |

※各科目の定員等、詳細については募集要項に掲載しております。

申込締切
7月26日(金)
※必着

募集要項請求について

- 募集要項は、宮崎公立大学地域研究センター(凌雲会館2階)、事務局企画総務課(管理棟1階)で配布します。また、宮崎公立大学ホームページからダウンロードすることもできます。 <http://www.miyazaki-mu.ac.jp/>
- 郵送にて募集要項を請求の方は、郵便番号・住所・氏名を明記の上、140円切手を貼った返信用封筒(角型2号・A4用紙が入るサイズ)を同封し、宮崎公立大学地域研究センターあて「開放授業募集要項請求」と朱書きし、お申し込みください。

- ✓ お申込みされる際は、必ず「宮崎公立大学 令和元年度後期開放授業 募集要項」をよくお読みください。
- ✓ ご不明な点などございましたら、下記地域研究センターまでお問合せください。

宮崎公立大学 地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 凌雲会館2階
TEL:0985-20-4772 FAX:0985-20-4773
受付時間:平日9時～17時

令和元(2019)年度 その他講座・講演

講 座 名	担当講師	目 的	日 程
英語体験 プログラム (小学 5.6 年生対象) 目指せ！ 発音マスター	教 授 戸高 裕一	音声認知ソフト「English Central (発音練習コース)」による英語の 発音力判定と、実施協力者（音声学 ゼミの学部生）による発音指導を実 施することで、正しい発音方法を身 に付けるとともに、参加者の基礎的 な英語発音力向上を図る機会を設 けた。	令和元年 12 月 21 日（土） 10:00～15:30
英語教育 フォーラム 2019 大学生・大学院生・ 教員の視点から英語 教育の理論と実践を 考える	教 授 麻生 雄治	宮崎公立大学は、開学当初から教 職課程をもち、これまでに 250 名を こえる小学校・中学校・高等学校の 英語教員を輩出してきた。 今後も、本学が宮崎における知の 拠点のひとつとして、より一層地域 に貢献するとともに教育の向上に 資する教職員ネットワークを構築 するため、昨年の開学 25 周年記念 シンポジウムに続き、宮崎県内外の 英語教育関係者に広く呼びかけ、フ ォーラムを開催する。 また、本フォーラムの開催によっ て、宮崎の英語教育発展と、今後の 定期的・自主的な研究会や研修等の 開催を目指すものである。	令和元年 12 月 21 日（土） 13:00～17:40

英語体験プログラム（小学5・6年対象）			
講演名		目指せ！発音マスター -最新の発音認知ソフトと国際音声記号の活用-	
実施期間・回数		令和元年12月21日（土）10時00分～15時30分	全1回
会場		宮崎公立大学 マルチメディア第2講義室	
	時間	プログラム内容	
1	10:00～10:20	開講式（あいさつ、オリエンテーション）	
2	10:20～10:50	講義①「音声認識ソフトはどのように作られるの？」	
3	11:00～12:00	音声認識ソフトを用いた発音測定及び練習① 英語子音発音のコツ指導	
4	12:00～13:00	昼食・休憩	
5	13:00～14:00	音声認識ソフトを用いた発音測定及び練習② 英語子音発音のコツ指導	
6	14:00～14:40	講義②「歌を活用した発音学習法」	
7	14:50～15:10	国際音声記号を活用したゲーム	
8	15:10～15:30	修了式（修了証授与等）	
受講者負担		受講料無料	
募集対象		小学校5・6年	
募集定員		20名	
参加者		24名	

【音声認識ソフトを用いた発音測定及び練習】



【参加者との集合写真】



目指せ発音マスターチラシ (1)

宮崎公立大学主催 英語体験プログラム (小学校5・6年生対象)

目指せ！発音マスター

— 最新の音声認知ソフトと国際音声記号の活用 —

パソコンを使った英語の発音練習や発音ゲームを体験してみよう！

開催日程・募集内容 等

開催日

12月21日(土)

- ◆会場：宮崎公立大学
(宮崎市船塚1丁目1-2)
- ◆対象：小学校5・6年生
- ◆定員：20名 (応募者多数の場合、抽選)
- ◆参加費用：無料
- ◆申込方法：裏面をご覧ください。
- ◆申込締切：11月22日(金) 必着

※裏面をよくお読みいただき、保護者の方の同意の上、お申し込みください。

プログラムの内容 (予定)

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:20 開講式(あいさつ、オリエンテーション)
- 10:20～10:50 講義①
「音声認知ソフトはどのように作られるの？」
- 11:00～12:00 音声認知ソフトを用いた発音測定・練習①
英語子音発音のコツ指導
- 12:00～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:00 音声認知ソフトを用いた発音測定・練習②
英語母音発音のコツ指導
- 14:00～14:40 講義②
「歌を活用した発音練習法」
- 14:50～15:10 国際音声記号カードを活用したゲーム
- 15:10～15:30 修了式(修了証授与 等)

※内容は予定であり、一部変更になる場合があります。予めご了承ください。

講師：戸高 裕一(宮崎公立大学 人文学部 教授・応用言語学博士)

佐々木 彩子(東京立正短期大学 非常勤講師・文学博士)

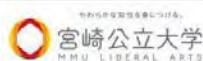
◆講師からのメッセージ◆

最近のコンピューター技術の進歩により、私たちの英語の発音レベルをコンピューターが色で評価できるようになりました。その最新技術を使って、実際に皆さんの英語の発音レベルを診断します。そして大学生のお兄さんお姉さんと一緒に発音の練習をして、レベルアップを目指しましょう！
また、国際音声記号を用いた発音ゲームをしながら、英語以外の外国語(フランス語・ドイツ語・スペイン語)の発音にもチャレンジしてみよう！



申込・問い合わせ先

宮崎公立大学 地域研究センター 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地
TEL:0985-20-4772 FAX:0985-20-4773 E-mail:mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp



宮崎公立大学のことをもっと知りたい！

宮崎公立大学

検索

<http://www.miyazaki-mu.ac.jp/>

目指せ発音マスターチラシ (2)

お申し込み方法 【申込締切：11月22日（金）必着】	
FAXによる お申込	本申込書に必要事項をもれなくご記入の上、FAXにて送信してください。 （参加可否の案内を後日郵送します。） FAX番号 0985-20-4773
郵送による お申込 (11/22(金)必着)	本申込書に必要事項をもれなくご記入の上、郵送にてお送りください。（参加可否の案内を後日郵送します。） 郵送先住所 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地 宛 先 宮崎公立大学 地域研究センター「目指せ！発音マスター係」
E-mailによる お申込	（1）メールの件名に、「目指せ！発音マスター申込」と明記してください。 （2）メールの本文に、以下の内容を入力し、送信してください。 受講希望者名（ふりがな）、生年月日、性別、郵便番号、住所、電話番号（講座当日、確実に連絡できる番号）、保護者名、学校名、学年、同意事項（「保護者の同意のうえ申し込みします。」） （受付確認のメールを送ります。参加可否については後日郵送します。） E-mailアドレス mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

令和元年度 宮崎公立大学「目指せ！発音マスター」参加申込書	
参加についての注意事項を遵守し、令和元年度宮崎公立大学「目指せ！発音マスター」への参加を申し込みます。また、「レクリエーション保険（保険料は大学が負担）」に加入することに同意します。	
プログラム名	目指せ！発音マスターー最新の音声認知ソフトと国際音声記号の活用ー
(ふりがな) 受講者名	生年月日 年 月 日 〈 歳〉
	性 別 男 ・ 女 ※〇をつけてください。
住 所	〒 ー ー ー ー ー ー ー ー
保護者名	印 電話番号 ー ー ー ー ー ー ー ー （緊急連絡先） ※講座当日、確実に連絡できる番号を記入してください。
学 校 名 学 年	小学校 年生

お申し込みの際の注意事項等
● 本講座の参加には、保護者の同意が必要です。FAX及び郵送でのお申し込みの場合は、保護者印を押印の上、お申し込みください。 ● 集合場所とご自宅との往復路については、保護者の責任で必ず付き添っていただくようお願いいたします。 ● 申込者多数の場合は、抽選を行います。 ● 申込者数に関わらず、参加の可否についてお知らせする文書を、11月末頃を目途に、郵送にて全申込者へお送りいたします。 ● 参加される方は、レクリエーション保険の対象となります。保険に係る費用は宮崎公立大学が負担します（手続は不要です）。 ● 昼食は各自でご準備ください。 ● 遅刻されないようご注意ください。開始時刻になりましたら、全員揃っていない場合でもプログラムを開始させていただきます。 ● 保護者の参加は、本講座への影響がない範囲で可能です（詳細は参加決定者に対し、文書にてお知らせいたします）。

気象状況等における講座の取扱について
● 宮崎県下に次のような気象警報が生じた場合は延期または中止となる場合もございますので、あらかじめご了承ください。 講座開始2時間前の時点で、宮崎市に大雨警報、洪水警報又は暴風警報が発表され、かつ、宮崎市内の路線バスが運転を見合わせている場合 ● 講座の延期や中止に関する取扱については、本学ウェブサイトにてお知らせいたします。

宮崎公立大学英語教育フォーラム 2019			
講 演 名		大学生・大学院生・教員の視点から 英語教育の理論と実践を考える	
実施期間・回数		令和元年 12 月 21 日（土）13 時 00 分 ～ 17 時 40 分	全 1 回
会 場		宮崎公立大学 103 大講義室	
	時間	内 容	
1	13:00～13:15	開会行事	理事長・学長挨拶、大会実行委員長挨拶
2	13:15～14:45	講演	テーマ：「大学生・大学院生・教員の視点から英語教育の理論と実践を考える」 講 師：鈴木 健太郎（北海道教育大学釧路校 准教授）
3	15:00～16:20	シンポジウム	「教師の英語力に裏打ちされる授業づくり」 コーディネーター：麻生 雄治（宮崎公立大学教授） プレゼンター：中島 一耀（大分県立宇佐高等学校教諭） プレゼンター：中川 春香（綾町立綾中学校教諭） プレゼンター：谷口 みなみ（小林市立小林小学校教諭）
4	16:30～17:30	情報交換・ グループ討議	司会：麻生 雄治（宮崎公立大学教授） 参加者による意見・情報交換、グループ討論
5	17:30～17:40	閉会行事	
受講者負担		受講料無料	
配布資料等		講演資料	
募 集 対 象		宮崎県内外の教育関係者	
参 加 者 数		60 名	
【講演】		【グループ討議】	
			

宮崎公立大学英語教育フォーラム2019

大学生・大学院生・教員の視点から 英語教育の理論と実践を考える

2019年

12月21日 土 13:00-17:40

趣旨

宮崎公立大学は、開学当初から教職課程をもち、これまでに250名を超える小学校・中学校・高等学校の英語教員を輩出してきた。

今後も、本学が宮崎における知の拠点のひとつとして、より一層地域に貢献するとともに教育の向上に資する教職員ネットワークを構築するため、昨年の開学25周年記念シンポジウムに続き、宮崎県内外の英語教育関係者に広く呼びかけ、フォーラムを開催する。

また、本フォーラムの開催によって、宮崎の英語教育発展と、今後の定期的・自主的な研究会や研修等の開催を目指すものである。

講演

テーマ：「大学生・大学院生・教員の視点から英語教育の理論と実践を考える」

講師：鈴木 健太郎
(北海道教育大学釧路校 准教授)

【問い合わせ・申込先】 宮崎公立大学 地域研究センター

〒880-8520 宮崎市船塚1丁目5-8番地

TEL: 0985-20-4772 FAX: 0985-20-4773 E-mail: koza@miyazaki-mu.ac.jp

※申込の際は、メールの件名またはFAX上部に「英語教育フォーラム2019申込」と明記し、①氏名(ふりがな)、②所属校、③当日連絡可能な電話番号、④情報交換会参加の有無、を記載の上、お申し込みください(様式任意)。

宮崎公立大学英語教育フォーラム2019

日時：12月21日(土)13:00~17:40

場所：103大講義室

日程スケジュール

- 13:00-13:15 開会行事
- 13:15-14:45 講演
- 15:00-16:20 フォーラム
- 16:30-17:30 情報交換・グループ討議
- 17:30-17:40 閉会行事
- 18:00-20:00 情報交換会 (※)

※宮崎市内にて開催します。会費等詳細については、後日ご案内します。
なお、情報交換会参加にあたっては、**事前申込(12/13(金)12時まで)**が必要です。

フォーラム「教師の英語力に裏打ちされる授業づくり」

- コーディネータ：麻生 雄治 (宮崎公立大学 教授)
- プレゼンター：中島 一耀 (大分県立宇佐高等学校 教諭)
- プレゼンター：中川 春香 (綾町立綾中学校 教諭)
- プレゼンター：谷口 みなみ (小林市立小林小学校 教諭)

情報交換・グループ討議

- 司会：麻生 雄治 (宮崎公立大学 教授)
- 参加者による意見・情報交換、グループ討論

後援：宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会

令和元(2019)年度 公民館講座一覧

NO.	講 座 名	担当講師	日程・講座会場
1	ブックサロン	准教授 楠田 剛士	久峰中校区活動センター 令和元年 8 月 3 日 (土)
2	ブックサロン	准教授 楠田 剛士	赤江公民館 令和元年 9 月 4 日 (水)
3	ブックサロン	准教授 楠田 剛士	赤江公民館 令和元年 9 月 11 日 (水)
4	心理学入門	教 授 川瀬 隆千	宮崎東地区交流センター 令和元年 10 月 23 日 (水)

Ⅱ 研 究 事 業

令和元(2019)年度 宮崎市学術研究振興助成事業

(1) 地域貢献研究事業

No.	職 氏 名	研 究 課 題
1	教 授 川瀬 隆千	援助要請の向上を目的とした介入プログラムの展開 ～助け合いのコミュニティ創出に向けて～

令和元(2019)年度 地域貢献研究事業報告書

援助要請の向上を目的とした介入プログラムの展開
～助け合いのコミュニティ創出に向けて～

[研究代表者]

川瀬 隆千（宮崎公立大学・教授）

[研究分担者]

野崎 秀正（宮崎公立大学・准教授）

立元 真（宮崎大学・教授）

後藤 大士（都城新生病院）

岩切 祥子（いわきりこころのクリニック）

坂邊 夕子（細見クリニック）

岡本 憲和（カリタスの園）

I 研究内容・目的

概要

子育て支援サービスとしての公的相談機関に援助を求める親は、実際に育児の悩みを抱えている親の数と比べてはるかに少ない。本研究グループの2018(平成30)年度の研究(野崎ら, 2018)では、その原因として公的機関への援助要請に対する態度の影響を明らかにした。

その結果を踏まえ、本研究では、公的機関への援助要請に対する態度変容と要請意図の向上を促し、育児に悩む親の積極的・自立的な援助要請を可能にする介入プログラムを開発して、その効果を検討した(九州心理学会第80回大会(熊本大学)で発表)。

II 研究の方法

1. 「親の援助要請(相談)行動の促進を目的とした介入プログラム」の開発

2018(平成30)年度に、本研究グループが実施した調査の結果を踏まえ、公的機関への援助要請に対する態度変容と要請意図の向上を促し、育児に悩む親の積極的・自立的な援助要請を可能にする介入プログラムを開発し、教材を作成した(添付資料参照)。

介入プログラムは教材を使用した約60分間の情報提供型のプログラム(「子育て支援ワークショップ」と称する)であり、以下の5つの内容から構成されていた。

- ① 子育てにおける悩みと相談内容に関する事例
- ② 地域に存在する様々な公的機関(名称等)の紹介
- ③ 援助要請を促進・抑制する心的メカニズムの説明
- ④ 相談のタイミングについて考えるワーク
- ⑤ 公的機関に相談したときの臨床心理士の対応事例

2. 「親の援助要請(相談)行動の促進を目的とした介入プログラム」の実施

介入プログラム(子育て支援ワークショップ)は、2019年10月～11月に3回に分けて、以下の施設(保育所等)で実施した。

参加者は本プログラムへの参加に同意した宮崎市内に在住する0～6歳までの乳幼児を持つ母親37名であった。

実施施設と人数は「あおぞら保育園」16名、「カリタスの園乳児院つぼみの寮」5名、「きらきらアート保育園」16名であった。

3. 「親の援助要請(相談)行動の促進を目的とした介入プログラム」の効果検証

介入プログラムの効果を測定するため、介入直前(ワークショップ開始直前)と介入直後(ワークショップ終了直後)の2回、それぞれ約5分間の質問紙調査を行った。

質問内容は以下のとおりである。

①公的相談機関への援助要請意図

子育てに対して悩みがあるが身近な人に相談できないとき、公的相談機関（子育て支援センター、保健所等）に対してどれほど相談すると思うかを尋ねた（5件法）。

②公的相談機関への援助要請に対する態度

野崎ら（2018）を参考に、援助要請に伴う心的コスト等のネガティブな態度6項目と援助要請に伴う利益であるポジティブな態度2項目の計8項目について尋ねた。具体的な質問項目を表1に示す（全て5件法）。

③操作の検討

介入後にプログラム内容の理解度を尋ねた（5件法）。

III 研究成果と考察

1. 介入プログラムの操作の検討

プログラム内容についてどの程度理解できたかを尋ねた結果、参加者全員が「とてもよくわかった」（70.3%）「だいたいわかった」（29.7%）のいずれかに回答しており、介入プログラム（ワークショップ）の内容は妥当であることが確認された。

2. 援助要請意図と援助要請態度に対する介入プログラムの効果の検証

介入プログラム（ワークショップ）の前後における「公的相談機関への援助要請意図」と「公的相談機関への援助要請に対する態度」の平均値をt検定により比較した（表1）。

その結果、「公的相談機関への援助要請意図」については、介入前よりも介入後の方が有意に高かった。つまり、介入プログラム（ワークショップ）を受講した後では、受講前に比べて、子育ての悩みを身近な人に相談できないとき、公的相談機関（子育て支援センター、保健所等）に相談しようとする意図が高まったと言える。このような結果から、本研究で開発した介入プログラムは援助要請意図を促進する効果があることが確認された。

援助要請への態度については、ネガティブな態度6項目全てで介入前よりも介入後に有意に低くなっていた。一方、ポジティブな態度2項目については、介入の前後で有意差は見られなかった。つまり、介入プログラム（ワークショップ）の後では、「どこに相談していいのかわからない」「相談しても解決しない」「何を言われるかわからないので不安」などの相談に対するネガティブな態度が低下した。一方、「私にと

って望ましい結果になる」「私の気持ちが楽になる」というポジティブな態度には介入プログラムの効果は認められなかった。このように、本研究で開発した介入プログラムは援助要請へのネガティブな態度を低減させる効果を持つが、ポジティブな態度への効果は認められなかった。この結果から、今回開発したプログラムは公的相談機関への情報不足から生じる漠然とした不安の低減には効果的であることがわかった。しかし、援助要請に伴う具体的な利益については、実際に相談しないとわからないと思われるため、その変容を促すことはできなかったと考えられる。

表1 プログラム介入前後における援助要請意図得点と援助要請への態度得点の平均値の比較							
項目	n	平均値		標準偏差		t 値	効果量 (r)
		介入前	介入後	介入前	介入後		
援助要請意図	37	3.51	4.32	1.21	0.92	4.82 **	.63
1, 「どこに相談していいかわからない」	37	3.16	2.03	1.44	1.28	4.62 **	.61
2, 「相談しても解決しない」	37	2.78	2.14	0.79	0.92	4.03 **	.56
3, 「何を言われるかわからないので不安」	37	2.51	1.54	1.07	0.80	5.07 **	.65
4, 「子どもがつらい思いをするかもしれない」	37	2.03	1.22	1.14	0.53	4.82 **	.63
5, 「私にとって望ましい結果になる」	36	3.06	3.42	0.75	1.36	1.49	.24
6, 「だめな親と思われるかもしれない」	37	2.00	1.41	1.05	0.73	3.90 **	.55
7, 「私の気持ちが楽になる」	37	3.62	3.97	0.92	1.36	1.35	.22
8, 「相談せずに親が解決するべきである」	37	1.76	1.19	0.96	0.52	3.98 **	.55
(注 * $p<.05$, ** $p<.01$)							

IV 研究成果の活用

本研究グループが開発した情報提供型のプログラム（教材を使った子育て支援ワークショップ）は、公的相談機関に対する情報不足から生じる母親の漠然とした不安を低減し、公的相談機関への相談意図を促進して、子育てサービスの利用を促進する効果を持つことが確認された。

今後、子育てに関する相談行動のより詳細な検討や公的相談機関との密接な連携など、さらなる検討や修正が必要であるが、本プログラムを広く展開することによって、専門的な機関からの適切なサポートを早期に受けることができ、親の子育てに関する悩みが解決されるであろう。このことは児童虐待などの深刻な社会問題の発生を未然に防ぐことにもつながる。このように、本研究は「安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長できる」宮崎市の実現に貢献するものであると言える。

Ⅲ 連 携 協 力 事 業

宮崎市教育委員会との連携協力

宮崎市教育委員会との令和元(2019)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（ 長期：半年間 ）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

- (1) 総 数 令和元年度 参加者なし
- (2) 活動期間 半年間

2 宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（ 長期：1年間 ）

教員を目指している3・4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 5名（ 3年生 5名 ）
- (2) 活動日数 1年間

3 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（ 長期：半年間 ）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 1名（ 4年生 1名 ）
- (2) 活動期間 半年間

4 大宮中学校における英語学習アシスタント活動（ 長期：1年間 ）

教員を目指している3・4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

- (1) 総 数 6名（ 3年生 6名 ）
- (2) 活動日数 1年間

5 第13回ひむかかると競技大会

令和2年2月15日(土) 宮崎公立大学体育館において開催した。

- (1) 目 的 宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をと
おして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み高揚させることに
より、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
- (2) 主 催 ひむかかると協会
- (3) 共 催 宮崎市教育委員会 宮崎公立大学
- (4) 後 援 宮崎県教育委員会
- (5) 競技種目 団体戦・個人戦
- (6) 参加資格 小学生の部 県内在住の小学生
幼児の部(ひむかかるとフェスタ) 市内保育園児・幼稚園児

※ 詳細は 84ページに掲載

6 その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

① サマースクール支援（夏季休暇中）：

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

学校の事情により中止。

② 英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行った。

(1) 11月： 8名参加

(2) 6月： 4名参加

(2) 2月： 4名参加

③ 英語学習アシスタント活動（ 長期：1年間 ）

教員を目指している3・4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30(2018)年度から英語学習アシスタント活動を行った。

(1) 総 数 1名（ 4年生 1名 ）

(2) 活動日数 1年間

<宮崎県教育委員会主催事業>

スクールトライアル事業への参加（ 短期：3日間 ）

昨年度に引き続き、教員を目指す2年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供した。

(1) 総 数 14名（ 2年生 14名 ）

(2) 受入学校 県内の小学校、中学校、高等学校

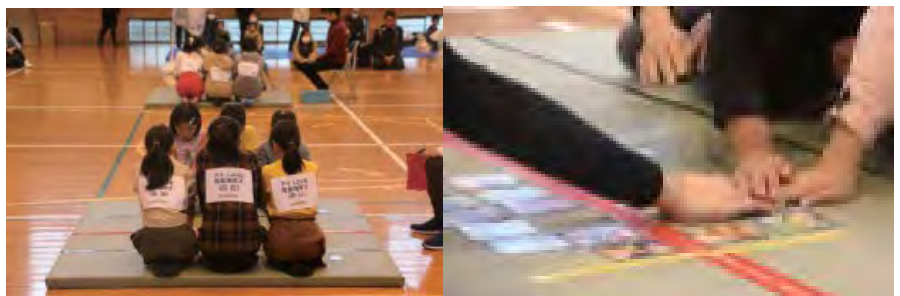
(3) 活動日数 3日間

行事名	第 13 回 ひむかかると競技大会
目 的	宮崎の文化、歴史、産業、風土、偉人などを綴った郷土かるたの競技をとおして、若年層を対象に地域についての知識と愛情を育み、高揚させることにより、「ふるさと・みやざき」のイメージを再生、創造する。
実施日時	令和 2 年 2 月 15 日（土） 午前 9 時～午後 4 時
会 場	宮崎公立大学 体育館 （宮崎市船塚 2 丁目 184 番地）
主 催	ひむかかると協会
共 催	宮崎市教育委員会 宮崎公立大学
後 援	宮崎県教育委員会
競技種目	個人戦、団体戦
参加資格	小学生の部 県内在住の小学生 幼児の部（ひむかかるとフェスタ） 市内保育園児・幼稚園児
参加人数 (チーム)	ひむかかると競技： 17 小学校より、団体戦 32 チーム、個人戦 27 名、 合計 123 名
参加者数	選手 123 名。 来賓、観客も含め約 350 名。
参加者負担	（参加料） 無料
資 格 等	団体戦各小学校 3 チーム、個人戦 2 名までとする。
競技方法	団体戦、個人戦ともに予選はリーグ戦、決勝はトーナメント戦にて行う。予選リーグの対戦については、事前申し込みに従い前日までに実行委員会が代理抽選にて決定する。
競技規則	別に定める「ひむかかると大会競技規則」による
審 判	競技規則に基づき公認審判員が努める。
表 彰	1～4 位を上位入賞者とし、表彰する。また参加選手全員に参加賞を授与する。
・ 競技大会には県内 17 小学校から、団体戦（3 人 1 チーム制。各小学校 3 チームまで参加）32 チーム 96 名、個人戦（各小学校 2 人まで参加）27 名、計 123 選手が参加した。これに先立ち、昨年度昼休みを利用して行われた幼児向け企画「ひむかかるとフェスタ」を、大幅に規模拡大し、「第 2 回ひむかかるとフェスタ」として独立した大会として行っており（令和元年 11 月 30 日：後述）、2 大会を合計すると 198 名の参加となった。これまでにない数の子供たちが、ひむかかると大会に参加したことになる。昨年度より引き続き宮崎公立大学の学長裁量枠予算もいただきながら、公立大、市教育委員会の共催の下で、大会は順調に発展してきていると考える。	

【競技のまよう】

- ・ 午前9時30分より開会式が行われた。来賓として二見俊一宮崎公立大理事長、西田幸一郎宮崎市教育長が臨席した。
- ・ 10時より試合開始。昼休憩(12時～13時)をはさみ、午前中は予選リーグ3試合、午後は決勝トーナメント4試合が、それぞれ団体戦、個人戦同時並行という形で行われた。
- ・ 団体戦は宮崎南小学校「I Love ちきんなんばん s」、個人戦は、宮崎南小学校 H・M 選手が優勝した。(個人情報保護の観点から選手名は記さない)
- ・ 第13回目を迎えた今年度であったが、参加校数は昨年度並みの17校となった。選手数は本年度より各校選手枠を厳守して募集を行ったため、123名とやや減少した。試合ではここ数年の大会同様、ハイレベルな技の攻防が相次いだ。特に午後の決勝トーナメントでは、例年以上に白熱した試合が展開された。特に今回は各部門とも宮崎南小学校が上位を独占する結果となった。宮崎南小学校では、昨年度の大会上位を独占した大塚小同様、ひむかかるとを用いた教育、課外活動等、独自の活動をここ数年行っていたにいていいる。今年度、早くもその成果が反映されたものと考えられる。また、昨年度団体個人ともに優勝した大塚小をはじめ、他の小学校においても現状ではこれまで以上にかかるた活動に深く取り組んでおり、今回の大会では総じて選手たちが日ごろからかるたに真剣に取り組む、一層の技量アップを果たしていることが確認できたと考える。

●競技風景



【今大会の特徴】

①企画・運営・演出面

- ・ 昨年度実験的に行った団体戦参加のチーム名登録を、本年度も引き続き義務化した。これは、チームとしての一体感を出すとともに、子供たち自身とふるさと宮崎の関係について考えてもらうことを狙ったものである。大会当日は、昨年度にも増して子供たちの宮崎愛を感じさせる、ユニークで個性的な名前のチームで満ち溢れることとなった。本年度のベストネーミング賞として、宮崎小学校「ひょっとこ、ひょっとこ宮小っこ」、宮崎港小学校「懸命にカルタをみがく港っ子」、田野小学校「たくあんバリボリ田野っ子」の3チームが受賞した。
- ・ 運営面では、まずこれまで好評だったBGMによる演出は今年も行われた。特に昨年シンガーソングライターの大野勇太氏に作詞・作曲を依頼した「ひむかかるとの歌」をイメージソングとして随所に流すことで、大会全体のまとまったイメージ作りをすることができた。
- ・ また、大会運営に当たり、昨年同様ひむかかると事業協力校の先生方、公立大アルバイト生に加え、小学生、中学生たちに参加いただき、大会を大いに盛り上げていただいた。近年の大会で見えてきた「子供たち及び先生たちのひむかかると」という大会の性格も、かなり明確になってきたと考える。審判、あるいは運営スタッフとして大会に参加することは、選手として勝負を争うこととはまた違った喜びを与える。大会を追うごとに運営に子供たちがかかわる傾向は、本来のかるとの魅力、事業の狙いから考えれば、まさに理想的な展開であるといえる。今後ますますのかると普及への効果を期待して充実したものとしていきたい。
- ・ 事前告知、事後の報告については、大会の事前広報活動（宣伝パンフレット、新聞形式のかると通信（計2回）等の宣伝メディアの発行、配布）や当日の運営の主要業務はひむかかると協会事務局を中心とした実行委員会が行った。これまで同様大会の様子をまとめた「ひむかかると通信」第14号を年度内に発行し、市内各校をはじめとした関係各方面への配布を行うことができた。卒業を控えた6年生児童にも確実に届けることができた。

②参加学校について

- ・ 小学生の部における参加校数については、昨年度の19校から微減し17校となった。協力校事業については平成30年度と同じ市内17校で進めたが、インフルエンザ等の理由により今回の参加がかなわなかった学校もあり、目標とした20校には届かなかった。

③「第2回ひむかかるとフェスタ」（幼児向けひむかかると大会）について

- ・ 前述のように、昨年度昼休みの時間を利用して開催した幼児向け企画「ひむかかるとフェスタ」を、好評につき大幅に規模拡大し「第2回ひむかかるとフェスタ」として令和元年11月30日に宮崎公立大学体育館で開催した。これは幼児向けの優しいルールで3試合行ったもので、次世代の「宮崎大好きっ子」育成に向け、幼児期より遊びとしてのひむかかるとになじむ子供たちを増やすことを意図している。昨年同様宮崎保育会の協力のもと、宮崎市、宮崎公立大の後援で行われた。当日は6保育園、4幼稚園から75人もの園児が参加し、「まんまるリーグ」「まっすぐリーグ」の2形式に分かれ、ゲームとしてのかるとあそびを楽しんだ。

【今後に向けて】

- ・「ひむかかるた大会」をはじめとする一連のひむかかるた普及事業については、本年度も「ひむかかるた協会」を中心に、市教育委員会、宮崎公立大学の強力な支援を仰ぎながら、順調な発展をとげることができたと考える。宮崎公立大学から、地域への地域貢献としてスタートした事業が、10年を経て地域に根付き、地域と公立大が連携して行う活動へと育ちつつあることを、あらためて実感する次第である。
- ・とりわけ本年度は、従来の小学校対象の普及活動が、現場の先生方のご尽力により、より充実した展開となったことに加え、昨年度より新たに組みこんできた保育園・幼稚園における普及事業がいよいよ本格的に進み始めたことは大きな収穫であった。かるたの導入を幼児期に設定し、小学校、中学校へとつなげていく郷土教育は、故郷に対する単純な愛着心を作るだけでなく、広く協同性や寛容性をも育むという点において、ここ数年の展開で見え始めた多面的な郷土教育の思想と軌を一にするものである。
- ・今後もこの方向性を模索しながら、かるたの普及に努めていきたいと考える。これまでの活動において、宮崎公立大、市教育委員会及び各小学校との間に作ってきた協力関係をベースに、新たに宮崎保育会の支援もいただきつつ、幼少期から活動として発展させていきたい。
- ・一方かるた事業の今後を考えるうえで今後大きな懸念材料となるのは、やはり、現在世界的な規模で猛威を振るう新型コロナウイルスであろう。所謂コロナ禍の影響から、次年度の活動内容について再検討を余儀なくされる部分も多いが、これまでの取り組みを状況に合わせてながらうまくアレンジすることで、何とか乗り切っていきたいと考える。
- ・ひむかかるた関連事業は、令和3年度には14年目を迎える。これまで活動を発展的に継続できたことに関して、関係各位には厚く御礼を述べるとともに、これからも変わらぬご尽力を賜るよう、切にお願い申し上げる次第である。

文責・梅津 顕一郎（本学人文学部准教授、ひむかかるた協会会長）

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

◎ 「インターンシップ論」の講義への講師派遣（宮崎銀行）

本学の前期開講科目である「インターンシップ論」に講師として行員を派遣し、企業概要やインターンシップのプログラムについて説明していただいた。

(1) 実施日 令和元年6月20日（木）

(2) 参加者数 約70名

◎ 令和元(2019)年度業界研究セミナー講師派遣（宮崎銀行）

本学が実施した業界研究セミナーに、講師として行員を派遣していただいた。

(1) 実施日 令和元年11月27日（火）

(2) 参加者数 約23名

◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で行う学生の企業訪問の受け入れを行っていただいた。

(宮崎市地元とつながる人材育成支援事業/「宮崎×キャリア」の探求2019)

(1) 実施日 令和元年12月3日（火）

(2) 訪問者数 宮崎銀行 10名、宮崎太陽銀行 7名

◎ 令和元(2019)年度インターンシップへの参加（宮崎銀行・宮崎太陽銀行）

*夏期インターンシップ（公募） 宮崎銀行 6名、宮崎太陽銀行 2名

宮崎商工会議所との連携協力

1 日商簿記検定

日商簿記検定の試験会場として、学内施設の貸出を行った。

・第 152 回検定 実施日：令和元年 6 月 9 日

宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社からは、その講義に、記者などを講師として派遣していただくこととなっております。

※令和元(2019)年度後期「時事問題ガイド」（主に1年生対象科目）

令和元年9月27日～令和2年1月10日 15回講義を実施

令和元年(2019年)9月28日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

新聞の読み方

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から

情報収集の上手な人は新聞を必ず読んでいます。ジャーナリストの池上彰さんは、15分、20分で毎朝8紙に目を通すという。新聞の醍醐味は「飛ばし読み」だと言っている。

黒木 裕司(くろき ゆうじ) 編集委員
員室編集委員
1992年入社
報道部員、
日向支局長、
支社長などを
支社長を経て
2019年から
現職。宮崎市
出身。51歳。

新聞の読み方

短い時間で情報が頭に入る理由は、一覧性があり、見出しを眺めるだけで概要が分かるためだ。また、記事の1段落目(リード)を読めば、最新の情報、そのニュースで一番伝えたい内容が分かる。新聞記事は、意味を伝えるのに必要最小限の言葉を使っており、情報の密度が濃い日本語。実用的な言語能力、実用日本語力を身に付けるのに適している。

情報を単にインプットしただけでは身に付かない。アウトプットを意識的に行うことで「身に付く」読み方となる。その第一歩がスクラップなので挑戦してほしい。

1次情報に直接取材し記者が書いた文章は、字句や事実

「飛ばし読み」醍醐味

関係の間違いがなければ何重もチェックして初めて新聞記事「ニュース」になる。また、異議があれば検討し、間違っているときには速やかに訂正・修正、そして情報を追加する態勢がある。一定の客観性を担保した情報だ。

新聞とりわけ地方紙は「権力の監視(権大)」と「地域コミュニティの一員(善き隣人)」という役割を担う。

宮崎日日新聞の方針は「読者と共感、県民と共感」。ニュース発信とともに、新聞配達時の高齢者見守り、美術展の開催、広告で企業活動を後押しするなど、さまざまな場面で県民に寄り添う役割を問われている。

学生の感想

【1年、宮下愛子さん(19)】
今まで新聞を読む習慣を付けようと、何度か挑戦したが、端から端まで読もうとして断念していた。見出しだけざっと目を通して、気になる記事を読むという方法で続けられそうだった。

【1年、岩本龍弥さん(19)】
効率的、効果的な新聞の読み方を学ぶことができた。新聞からさまざまな情報を集めて活用することで教養を深めていきたい。

【4年、鎌田ほのかさん(21)】
ネットニュースとの付き合い方や新聞の役割を学

び、改めて情報の取捨選択の大切さを知った。

【1年、東恵里花さん(18)】
ネットニュースは玉石混交なものであると頭では理解しているが、その手軽さから新聞を読む頻度が減っていた。メディア・リテラシーや批判的思考力が必要とされる今、この講義を通してそれらの力を培っていきたい。

【1年、中山菜摘さん(19)】
高校のときに3カ月ほどスクラップをしていた。そのときは、世の中で何が起きているかなど分かっていた。最近では、テレビのニュースもあまり見なくなってしまうので、またスクラップを始めた。 (27日の講義から)

令和元年(2019年)10月5日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

SDGsと宮崎

宮日と考える 宮崎の明日

宮立大時事問題講義から

▽▽2

今、国連の「持続可能な開発目標(SDGs=エスディーズ)」が注目を集めている。2030年までに世界で達成を目指すもの。飢餓の

中川 美香(なかがわ・みか)生活文化部長。1993年入社。報道部、日南支社、



文化部長、論説委員会を経て2017年から現職。都城出身。48歳。

SDGsと宮崎

撲滅、教育の確保、エネルギー対策など17の項目がある。15年に採択され、認知度が高まってきたものの、私たちはどこか「自分から遠い話」と捉えていないだろうか。国連は最新の報告書で、気候変動や貧富格差の拡大が、多くの分野で悪影響を与えつつあるとして強い懸念を表明している。日本を含めた各国は取り組みを強化すべきだろう。ではどうやって「人ごと」から「自分ごと」へ引き寄せらるか。その一歩は想像することだ。17の項目に本県の課題を当てはめ、行動目標を掲げる「宮崎版SDGs」を考えるのはどうだろう。例えば「気候変動に具体的な対策を」という項目。本県は農林

未来を想像し一步を

漁業に支えられており、異常気象で作物の病気が増えたり海水温の変化で不漁になったりすれば、経済や県民生活への影響は避けられない。県民挙げて現状を知り、対策を考え、実行したい。それが他の地域、他の国にも広がれば、地球全体がよい方向に進む。「貧困をなくそう」「ジェンダー平等を実現しよう」などについても、本県にはまだ課題が多く、SDGsを切り口に新たな解決の流れをつくることもできる。若い世代ほど未来に不安があるかもしれない。漠然と考えるのではなく、脱プラなど自分の関心事に絞って二ユースを追いつけ、自分できるところを探してみよう。

学生の感想

【1年、加藤竜矢さん(19)】今から10年後という私たちが日本の中心を担う世代。SDGsに関心を持たなくてはいけないと思った。

【1年、宮地月夜さん(19)】SDGsが提示する問題は世界規模で大きく捉えがちなが、身近な問題から知ることが大事だと感じた。

【1年、佐々木さくらさん(19)】項目全てに興味がある。もっと知りたい。調べたい。早く解決しなければ、私たちの生活にも影響が出る。

【1年、山田実侑さん(19)】目標の「つくる責任 つかう

責任」に興味を持った。パイロット先で大量の食品ロスを見てきたから。本当に必要な物しか買わない、食品は食べられる量だけ買うなど一人一人が実行することが必要。

【1年、前田遼人さん(19)】特に「質の高い教育をみんなに」に取り組むべきだ。人々の倫理的観念、道徳心が備わっていないければ環境、格差、ジェンダー問題などの改善につながらない。

【1年、山野千花さん(18)】「住み続けられるまちづくりを」は大事。県はSDGsを県民に示してほしい。私たちは若者ならではのアイデアでまちづくりをしていきたい。(4日の講義から)

令和元年(2019年)10月12日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

暮らしと選挙

宮崎の明日

宮日と考える
公立大時事問題講義から

▽▽3

国政、地方選挙問わず本県の投票率低迷は危機的な状況だ。昨年12月の知事選は33.90%、4月の県議選は39.76%、7月の参院選宮崎選挙区は41.99%と、選挙のたびに投票率が低下している。伊佐賢太郎(いさ・けんたろう)報道部次長は、1999年入社。報道部、運動部、南支社、西都支局長、整理グループ次長などを経て現職。宮崎市出身。45歳。

暮らしと選挙

・79%といずれも過去最低。参院選は全国の選挙区で最低と不名誉な結果となった。選挙になると「政治はだれがやっても同じ」「1票では変わらない」という声が聞かれるが、そうではない。限られた財源で道路を整備するのか、病院を建設するのか、医療費の助成を拡大するのか。候補者によって考えは違う。就職、結婚、出産、育児など、人生の局面でさまざまな壁が現れた時、社会制度への疑問や要望が生まれてくる。暮らしは1票の積み重ねが支え、変えていくという意識を持つてほしい。

9月27日に県選管と総務省が発表した参院選年齢別投票率(抽出)では、18・19歳が

1票で変える意識を

20・18%で全年代で最も低く、全国平均を12・10%下回った。20・24歳も20・65%と低迷した。これからの社会を支える若い人たちが投票に行かないことは、将来の社会づくりを棄権することになる。選挙は投票がゴールでなく、私たちが選んだ代表者が支援を受けた人だけでなく、さまざまな立場の人の意見を反映し、安心して暮らせる社会をつくることを目指す。

宮崎日日新聞は国政や県政、市町村議会までを報道し、選挙前は候補者や政党の公約などが分かるアンケートなどを掲載している。まずは関心がある分野の記事を探し、自分が住んでいる市町村の課題について考えてほしい。

学生の感想

【1年・東恵里花さん(18)】若者が投票に行かないので、高齢者を重視したマニフェストになってしまうこともあり得ることを自覚するべきだと思う。教育関係などを充実させてもらいたいなら、投票に行くことから始めるべき。

【1年・盛長安珠さん(19)】若者が特に関係する労働、子育ての問題に対して、政治家が明確な考えを示し、専門的な言葉ばかりではなく、分かりやすい表現で報道してほしい。

【1年・佐々木さくらさん

(19)】マニフェストは良いことばかりだけでなく、デメリットもあることも報道すべき。

【3年・新田莉子さん(21)】選挙権が18歳からになって急に「投票に行きましょう!」となったので、小学生くらいから分かりやすく選挙の仕組みを知ることができたら、もう少し選挙に積極的になれると思う。

【1年・加藤竜矢さん(19)】政治や選挙に関心が向かないのは、その候補者が当選することによるメリット、デメリットが分かりにくいから。チャートなどで情報を提供した方が若者には伝わりやすい。

(11日の講義から)

令和元年(2019年)10月19日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

子どもと障害

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽4

障害者差別解消法が2016年に施行されて3年がたった。同法の目的は障害のある人もない人も暮らしやすい「共生社会」の実現。だが、

小谷美(こたに・みのる)



報道部次長。1998年入社。小林支局長、整理部員、報道部員、日向支局長などを歴任。2018年4月から現職。宮崎市出身。45歳。

子どもと障害

社会には今も、障害者に対する差別や偏見が根強く残る。宮崎日日新聞は今年の1月から6月にかけて、「耳をすまして 子どもと障害のまぎき」と題した連載を6部構成で掲載した。障害のある子どもたちが、希望を持って暮らせる社会を実現するには何が必要か。子どもたちの日常に寄り添い、成長段階ごとの課題を追うなどして解決策を探った。

「共生」機運高めよう

する「無知」や「無理解」があることも強く感じた。一方、県内では共生社会を見据えた動きも少しずつ広がっている。教育、就労、スポーツ、芸術などの分野で、障害(者)と健常児(者)が日常を共有。その積み重ねが、両者の間にある「壁」をなくすことにもつながる。来年夏は東京パラリンピックの開催を控え、さらに本県においては来年初に、芸術を通して障害に対する理解を深める全国障害者芸術・文化祭(芸文祭)が開かれる。二つのイベントに向けて県内で高まりつつある交流と相互理解の機運を一過性のものにしていくことが求められる。

学生の感想

【1年、工藤千夏さん(19)】障害のある子どもは特別支援学校に通うことが多く、触れ合う機会が少ないことが距離感を遠くしている。共に学習できる環境づくりが進むように、身近なところから考えたい。

【1年、岩本龍弥さん(19)】障害のある子どもたちがどのようなことに困っているのか、まだよく分かっていなかった。彼らのことを理解して、差を感じさせないように接することが大切と思った。

【1年、宮地月夜さん(19)】学習環境のバリアフリー化が

重要。周囲が障害について理解し、配慮することで普通学級での学習も実現できる。学費負担や支援員配置など手厚いサポートも必要となる。

【1年、宮下愛子さん(19)】障害のあるなしにかかわらず、同じ教室で学ぶインクルーシブ教育を行えば、子どもの頃からいろんな人が交流できる。障害に対する理解が深まり、差別や偏見が減ると考える。

【1年、松尾隼汰さん(19)】障害のある子どもは言いたいことを言えず無理をしている時が必ずある。積極的に話し掛けて、言えるような環境をつくるが必要だと思う。(18日の講義から)

令和元年(2019年)10月26日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

就職活動とNIE

宮崎の明日

宮日と考える
公立大時事問題講義から

▽▽5

大学生の最大の関心事は就職だろう。この講義は1年生が中心だが、就職活動はいち早く取り組んだ人が勝ち。就きたい業種や採用試験を意識

侯野 秀幸(またの・ひでゆき) 編集委員、1991年入社。串間支局長、報道部次長、総務部次長、運動部長などを経て2019年から現職。小林市出身。52歳。



報道部次長、総務部次長、運動部長などを経て2019年から現職。小林市出身。52歳。

就職活動とNIE

し、普段から幅広く社会に関心を持つことが大切だ。最近の採用試験は小論文、面接、グループディスカッションが主流。自分の考えを自分の言葉できちんと表現できるかが問われる。つまり表現力重視の傾向といえる。今の10代は生まれたときからインターネットが普及し、会員制交流サイト(SNS)など文章のやりとりは「短文」中心。日頃本や新聞で長い文章、起承転結のある文章に触れず、国語力の低下を招いている。活字を読み、理路整然とした考え方や説明する力を養うことが大切だ。さらにネット時代では情報を正しく見極める力「情報リテラシー」も重要。膨大なネ

広く社会に目が届く

ット情報では、関心のあるニュースについてはとことん突き詰めて調べることができ、逆に関心のない情報には意識がいかない(目に触れない)。そこが落とし穴。新聞の特性は、ニュースのプロが厳選し、情報を網羅している点。ページをめくると知らない出来事に目が留まる。広く社会に目が届くということだ。新聞を読む習慣は就職活動で大きな力となる。それは就職して社会人になっても同じ。大学生活では教育に新聞を生かす「NIE(ニュースペーパー・イン・エデュケーション)」、社会人では「ビジネスに生かす「NIB」として継続してほしい。

学生の感想

【1年、溝上尚弥さん(18)】就職活動では自分の意見を求められる。新聞を読み、さらに自分の頭で考えた情報を自分の中に落とし込むことが大事だと思った。

【2年、三苫知紘さん(19)】新聞を読んで「もしこの記事で小論文を書くなら…」と考え、意見を持てるようにしたい。

【1年、盛長安珠さん(19)】「ネットやSNSで短文ばかりに触れ、国語力が落ちている」という指摘はその通りだと思った。小学生の弟がいるが、質問の内容と解答がずれ

ていることが多く、身近に感じた。

【1年、宮里開さん(18)】ネット情報での情報リテラシーの重要性を改めて感じた。関心のないニュースにも目が留まる新聞の優れた点が分かった。

【1年、高松末結さん(19)】「就職活動はまだ先だから大丈夫」と思わず、日頃から知識を増やし、自分の考えを持てるようにしたい。

【1年、近澤秀明さん(18)】新聞で気になった記事をネットで調べたり、逆にネットの記事を新聞で探してスクラップしたりと、相互の活用で知識を深めたい。

(25日の講義から)

令和元年(2019年)11月1日(金)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

変革期

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽6

近年はデジタル技術やバイオテクノロジーなどの技術革新が急速に進んでいる。国が目指すのは、人工知能(AI)やビッグデータをあらゆる座

戸高 大輔(とだか・だいすけ) 経済部長。1992年入社、総務部次長、報道部長。東京支社報道部長などを経て2019年から現職。宮崎市出身。50歳。



部次長、東京支社報道部長などを経て2019年から現職。宮崎市出身。50歳。

変革期

業や社会生活に取り入れる「ソサエティ5.0」。東京では、その動きをより身近に感じられる。動きの一つがコワーキングスペース。起業を目指す人、スタートアップ企業の関係者らさまざまな人が入居し、そこでの交流で生まれた化学反応を、新しいビジネスの種とするものだ。「群雄割拠」(国土交通省)と形容されるほど開業が相次いでいる。創業間もないスタートアップ企業は多く、本県出身の若い経営者も少なくない。こうした企業に対しては、東京都だけでなく、民間大手も手厚い創業支援を行っている。自分たちでは手の届かない分野の産業を育て、自社の利益に

“ビジネスの種”模索

もつなげるという。国も成長戦略の司令塔となる未来投資会議を毎月のように開催。行政、金融、交通、農林水産業などさまざまな分野の専門家を全国から招いては新時代を模索している。実は、こうした動きは本県でも見掛けることができる。コワーキングスペースは各地で開業しており、宮崎市と宮崎商工会議所が運営する「みやざき創業サポート室」は代表格。行政や商工会議所、商工会、金融機関の創業支援もあり、実際にベンチャー企業も誕生している。今は経済の変革期。東京ほどはなくても、宮崎でも「ソサエティ5.0」への取り組みを感じることができる。

学生の感想

【1年、愛甲奈生さん(19)】将来はデジタル技術を取り入れながら、都市にはない、地域それぞれが持つ良さを発信できる仕事に就きたいと思った。

【1年、林祐斗さん(19)】農業をしている祖父が小型無人機「ドローン」で農薬散布を考えていると話していた。技術革新で助かるわけだが、そうした社会に適応するには、いち早く情報を入手することが大切だ。

【1年、三上亮さん(19)】人工知能(AI)が急成長している時代。私たち文系の仕事はAIに取って代われそ

うで心配ですが、AIに負けないように自分の良さを見いだしたい。

【1年、甲斐大暉さん(19)】将来は地方の発展に尽力したい。(技術革新が進んでいるが)デジタル化に頼るのではなく、地域の特色やニーズに沿って発展させたい。

【2年、明川千夏さん(19)】技術革新には疎く、あまり詳しくないので、将来は情報収集した上で、自分の興味ある分野に進みたい。

【4年、佐藤まりこさん(22)】起業にはプラスのイメージがある。いつかやってみたいし、挑戦する人もいっぱい出てくると思う。

(31日の講義から)

令和元年(2019年)11月9日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

写真の役割と力

宮崎の明日

宮日と考える

～公立大時事問題講義から

▽▽7

記事だけでなく写真、イラストが配置された新聞紙面は見やすく、読む人の理解も早い。記事で表現することが難しいものでも写真1枚で伝えられる。読者の目を留めて記

中島 雅隆 (なかしま・まさたか) 写真



真映像部長 1987年入社
写真部次長 7年入社
を経て、2015年4月から現職。宮崎市出身。55歳。

写真の役割と力

事を読んでもらうため、よりインパクトのある写真を撮ることが求められている。

インタビュ記事にはボーズ写真を使う。これは、本人にきちんと取材したという証明で記事の信頼性を高めるものだ。また、顔写真も同じような意味を持つ。これは、顔を識別できる写真の正確さが認められているからだ。写真には記録性もある。本社の保存写真に、舗装されていない堀切峠(1952年)や県庁前の楠並木(64年)などがあるが、こうした写真がしっかりと保存されていたからこそ、今と昔の違いを情報として伝えてくれる。

2016年4月の熊本地震の際は、女子プロゴルフ取材

記事の信頼性高める

のため写真映像部員が熊本市内に滞在していた。すぐに無事を確認し、「取材しながら避難する」よう指示した。大変だったと思うが、目の前で何かが起こっているれば撮影するのがカメラマンのさだ。

スポーツ面で同一競技を数枚掲載するときは、さまざまなシーンを見逃さないように撮影している。同じような写真が並ぶと平凡な紙面になり、読者からも読まれない。次に何かあるかを想定しながらいつでも撮影できる状況を保たなければならない。

また、写真は保存すること大切。皆さんも自分が撮った写真は生きた記録なので、しっかりと残してほしい。

学生の感想

【1年、松浦朱里さん(18)】私たちが何げなく新聞で見ている写真は、カメラマンがたくさんの思いを抱えながら撮っている。そのことで読者はいろんな情報をくみ取り、受け取ることができる。

【1年、林祐斗さん(19)】新聞に写真が1枚載るまでに、まずその候補となる写真が撮れるまで何日もかかることと、掲載する写真を選ぶまでに、それぞれの部署が話し合いを重ねていることを知った。

【1年、山黒航平さん(19)】熊本地震を経験したが、宮崎

の新聞記者が熊本まで来て取材していることに驚いた。避難所の写真は、集まった人たちが困惑している様子がよく伝わった。

【1年、高松未結さん(19)】写真があることによって、言語だけでは伝えきれないことを、伝えることが可能になると改めて感じた。写真にも少し意識を向けたい。

【1年、前田遼人さん(19)】災害被害の甚大さ、感動の瞬間、季節の移り変わりなど、物事の正確な描写は写真だからこそできる。現在でも写真の存在価値、アイデンティティーが保たれているのだと感じた。

(8日の講義から)

令和元年(2019年)11月16日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義
人口減少時代を生きる

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽8

元号が令和に改まった。新しい時代に地域や職場で中心となるのは皆さんの世代だ。平成から積み残された人口減少という難題にどう対応すべ

小川祐司(おがわ・ゆうじ) 報道部長・ゆうじ 報道部次長 1992年入社



社長、経済部長などを経て2018年4月から現職。宮崎市出身。51歳。

人口減少時代を生きる

きか一緒に考えたい。
2015(平成27)年に10万4千人だった本県人口は、推計では45(令和27)年に82万5千人に減少。暮らしや経済に暗い影を落とす。ただ、希望もある。例えば価値観の変化。中山間地域である美郷町南郷の渡川地区にはUターンした子育て世帯が目立ち、地域活性化をけん引する。本県への移住も近年は、高水準で推移する。人々の考える幸福の「物差し」が明らかに変わってきた。また、介護予防や子どもの貧困対策などの課題に対し、住民らが主体的に取り組む姿も増えた。地域の互助機能の目覚めだ。人口が減る中、地域の担い手が増えているのは

よい変化を育みたい

心強い。これら平成に始まった変化を大切に育みたい。人口減少は消費、生産の両面で地域経済に影響を及ぼす。需要が減るのだから、県内企業は県外・海外で稼ぐ力や、製品やサービスの付加価値の向上が必要。労働力の減少に対しては、高齢者や女性の働きやすい環境の整備、生産の効率化などが急務だ。今後も人工知能(AI)やロボットなどの技術革新が進む。これらが生み出すスマート農業や遠隔診療、ドローン宅配、自動走行バスなどは、暮らしや産業を劇的に変える。地方こそ、先端技術を生かす意欲に火を付け、持続可能な地域や産業の在り方をデザインする意識が求められる。

学生の感想

【4年、佐藤まり子さん(22)】人口減少に悲観的にならず、補える部分や新しく創り出せる部分、これからの時代でも今あるものの中で生かせる部分が何なのかを考え、行動することが求められていると感じた。

【3年、石原実果さん(21)】IT技術を活用したり、地域に人を呼び込むような対策が必要。人口減少に伴う課題や変化を予測して、早い段階でさまざまな対策を考えていくことが大切だ。

【1年、井ノ又元気さん(18)】労働人口が減少してい

ることが改めて分かった。きつい状況の中だからこそ、チャンスと考え、行動を起こすことが大事だと思った。

【1年、田中香南海さん(19)】授業を受け、(出身地の)愛媛で就職するのもいいなと思った。これからは私たちが日本の中心になってくるので、これからのことをしっかり考えないといけない。

【1年、松浦朱里さん(18)】この現状をビジネスチャンスに変えられるように、先端技術と宮崎の強みをどう組み合わせたらいいのかを考える発想力があれば、問題解決につながり、新たな利益を生み出すことにもなるのでは。

(15日の講義から)

令和元年(2019年)11月23日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

スポーツと地域

宮日と考える

宮崎の明日

宮立大時事問題講義から

▽▽9

県内はプロ野球やJリーグなどの合宿・キャンプ地として知られ、経済効果をもたらされてきた。温暖な気候や蓄積されたノウハウに加え、ラ

大山 俊郎 (おおよま・としろう) 運動部長。1995年入社、高鍋支部次長、報道部次長などを経て2018年から現職。宮崎市出身。48歳。



スポーツと地域

グリー日本代表合宿で地元関係者が連日足を運んでサポートをするなど、練習環境整備を支える人の存在も大きい。

今年はサーフィンのワールドゲームスなど世界的なスポーツ大会も開かれ、来年の東京オリンピックに向けては事前合宿も予定されている。皆さんも見に行くなど、さまざまな形で関わってほしい。

合宿誘致は、施設面が充実していることも大きい。県総合運動公園は、1979(昭和54)年の宮崎国体開催時に整備された。2026年には2巡目の国体となる国民スポーツ大会(国スポ、23年から改称)が開かれる予定。今年開かれた茨城国体で本県順位は41位。県は男女総合優勝「天皇杯」獲得へ競技力強化を掲げており、優れた素質を持つ小中学生を発掘、育てるプロジェクトも進めている。

26年の国スポに向けて、陸上競技場や体育館、プールが新設されることになり、宮崎市はアリーナ建設を検討している。こうした施設整備で大切なのは、大会後にどう活用するか。スポーツだけでなく、災害時の避難所としての使用も想定する必要がある。

宮崎国スポで実施予定の35競技をどこで行うか、会場の市町村選定も進んでいる。実地競技を地域に根付かせるような取り組みも必要。国スポの「遺産」をどう残していくかを考えないといけない。

学生の感想

【1年、小川凜さん(18)】
スポーツ施設を訪れた人が「観光や街に行ってみよう」と思ってもらえるようにしたい。交通手段やツアーを用意したり、施設にポスターや広告を出したりしては。

【1年、山田実侑さん(19)】
高校で陸上競技をしていて、県外の大会にも行ったが、宮崎の競技場だけ電光掲示板がなかった。県総合運動公園にも整備すれば、もっといろいろな選手や団体が合宿しようと思うのではないかな。

【1年、崎山南海さん(19)】
昨年の福井国体に出場し、ス

タッフや運営側の頑張っている姿を見ることができた。宮崎でスポーツ大会があれば、会場やその周辺の支えられる部分で貢献したい。

【1年、近澤秀明さん(18)】
合宿で国内外から選手を呼べるのは宮崎の強みになる。人口減少が進む中で、若い人の移住を促進することもできるのではないかなと思う。

【3年、小永佳奈さん(22)】
地元・福井県で昨年行われた国体にボランティアで参加し、スポーツの迫力を体感し、関心も高まった。宮崎に住んでいるうちにいろいろな所を訪れ、スポーツの素晴らしさを経験したい。

(22日の講義から)

99

令和元年(2019年)11月30日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

プラごみ問題

宮日と考える
宮崎の明日
公立大時事問題講義から

▽▽10

プラスチックごみ問題への
関心が高まっている。プラス
チックは軽量で耐久性があ
り、安価で自由に成形できる
などメリットが多く、世界で

清水 正樹(しみず・まさ
き) 報道部
次長。19
99年入
社。報道
部、経済部、新軍支局長、整
理部次長、総務部次長などを
経て2019年4月から現
職。福井県出身。44歳。

生産量は右肩上がりが増えて
いる。ただ、プラスチックが
持つこうした特性が問題を複
雑にしている。

特に深刻なのは海洋汚染
だ。主に石油から作られるプ
ラスチックは自然では分解さ
れにくく、一度海に流出する
と漂い続ける。環境省の海岸
の漂着ごみに関する2017
年度抽出調査の結果では、個
数で見ると、調査地点の一
つ、日南海岸でペットボトル
やレジ袋、漁具といったプラ
ごみの割合が90%を超えた。
海岸に打ち寄せられたプラ
ごみは紫外線などを受けて小
さくなる。直径5ミ以下のも
のをマイクロプラスチックと
いう。11月10日、宮崎市青島
の海岸であった清掃に参加し

県内でも関心高まる

た。実際、無数のプラスチッ
クや発泡スチロール片などが
あった。これらをすべて回収
するのは不可能に近い。マイ
クロプラスチックは有害な化
学物質を吸着して、魚や貝な
ど生物の体内に蓄積する危険
性が指摘されている。

世界で脱プラスチックの動
きが加速している。国内で
は、来年7月からレジ袋が有
料化される見通しになった。
県内でも関心が高まり、使い
捨てプラを減らす取り組みな
どが徐々に広がっている。無
駄なレジ袋をもらわない、リ
サイクルのため各自自治体の分
別方法に従ってごみを出すな
ど、身近なところから取り組
んでほしい。日々の暮らしの
中でこの問題を考えてい

学生の感想

【2年・大津玲奈さん(19)】
プラごみをポイ捨てすること
などで、環境にどのような悪
影響を与えるか多くの人が知
るべきだと思う。「少しぐら
い大丈夫」という意識が大き
な問題につながる。

【1年・釈迦郡遙さん(19)】
マイバッグを持って買い物
をしている。もっとたくさん
の人が持てば、プラスチック
の消費量が減ると思う。

【1年・甲斐大暉さん(19)】
アルバイトをしているコンビ
ニでは、1日でたくさん
のレジ袋が消費される。「レ
ジ袋は必要か」と、従業員が聞

くとも必要だと思う。

【1年・山野千花さん(19)】
国や地域で、ごみの処理基準
を厳しくした方がいい。マイ
クロプラスチックが魚などの
体内に入り、人の体にも入っ
ていると考えると、とても怖
いと思った。

【1年・山黒航平さん(19)】
日本だけで解決できる問題で
はない。プラごみの排出量
が多い米国や中国の協力、国
際的な枠組みが必要だ。

【1年・工藤千夏さん(19)】
市街地のごみ拾いに参加した
ことがあるが、プラごみが多
かった。単純な解決策とし
て、ごみ箱をあちこちに設
置してはどうか。

令和元年(2019年)12月7日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

成長企業と宮崎の強み

宮崎の明日

宮日と考える

～公立大時事問題講義から

▽▽11

日本中が人口減少に悩む中、福岡市は人口を増やす希少な都市。アジアのゲートウェイ、交通の利便性といった魅力に加え、創業支援などに

鬼束 功一（おにつか・こういち）経



長、経済部次長、福岡支社報道部次長などを経て今年4月から現職。宮崎市出身。50歳。6年入社。日向支局員。1999年入社。日向支局員。1999年入社。

成長企業と宮崎の強み

も注力していることが強みとなっている。首都圏への若者の流出を防ぐ九州の人口ダムの役割も自認する。人口ダム（地方都市のダム機能）は、2014年に民間有識者会議「日本創生会議」が提唱した人口問題対策の一つ。出生率の低い東京など大都市圏へ若者の流出を防ぐため、魅力ある地方中核都市づくりへ資源、政策を集中投入する。この方法による効果は否定しないが、農村部や山間部にとつては、貴重な人材の流出という課題の根本的な解決にはならない。

多様性の共生に活路

めるという考え方。多様な価値観が共生しながら都市と農村の関係、地方と中央のバランスを再構築することが、人口の過度な一極集中という事態打破への第一歩となる。地方の多様性を生かすために、大きな役割を果たすのが地域に根差した企業だ。近年は1次産業が盛んな宮崎ならではの強みを生かし、成長を続ける「くしまオイファーム」（串間市）のような企業の台頭もあり、地方の希望となっている。これら成長企業は、独自の視点やアイデアで、ならではの強みの付加価値を高めている。今後も、地方の多様性が花開くようなアイデアを生み、実行する地域企業の誕生を期待したい。

学生の感想

【3年、新田莉子さん(21)】観光はまだ伸びそう。いろんなスポーツのキャンプ地、大会会場になっているので、そこに来る人たちへのアピールを工夫した方がいい。

【3年、小永佳奈さん(22)】高齢者による交通事故やあおり運転が深刻化している今、自動運転技術を導入した自動車の需要は今後さらに高まっていくと思う。（宮崎も力を入れる）自動車関連産業とIT（情報技術）に可能性を感じる。

【1年、東恵里花さん(18)】住みやすさをPRすべきだ。

都心の生活に疲れた人々をターゲットに、Iターンを増やす。そのためにも、適度に便利であることも求められるので、必要なインフラ整備は行った方がいい。

【1年、徳満南帆さん(18)】さまざまな農産物を生産できる宮崎。その特産品を使った料理を提供する飲食店が増えれば、農業の活性化につながるし、他県からの注目も集まる。

【1年、愛甲奈生さん(19)】農水産業と食品加工業が結びつければ、宮崎の強みはもっと伸ばせる。新しい名物が誕生し、県外へアピールすることで観光客増加も期待できる。（6日の講義から）

令和元年(2019年)12月14日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

裁判員制度10年

宮崎の明日

宮日と考える
公立大時事問題講義から

▽▽12



押川 真基(おしかわ まさき)

裁判員制度導入から今年で10年を迎えた。宮崎地裁では、制度開始の2009年5月から19年4月末までに459人の市民が裁判員を務め、岡支社経済部写真映像部などを経て2019年4月から現職。宮崎市出身。41歳。

裁判員制度10年

78人の被告に判決が言い渡された。刑事裁判に市民感覚を取り入れることを目的にスタートし、多くの市民が重責を担ってきた。人を裁くという経験を前に、心理的負担や不安が裁判員に重くのしかかる。取材に応じた経験者は「夜眠れなくて何度も目覚めた」「評議の投票で手が震え、涙を流した」などと話し、苦しさや葛藤を抱えながら裁判に臨んでいたことをうかがわせた。16年に行われた殺人事件の裁判。裁判員を務めた県内の女性も審理が進むうち、人を裁く不安が大きくなり、食事ものを通らなくなったと明かした。取材は判決を下した約3年後。二度と経験した

社会で経験共有重要

「社会を見る目が変化した」と経験を前向きに捉えてもいた。最高裁が今年実施した調査によると、8割が「参加したくない」と回答している。裁判員候補者の辞退率も高い。司法をより身近なものとし、司法参加の意義や必要性が広く理解されるためには、裁判員の経験を社会で共有することが重要になる。被告が犯した罪や事件の背景を見詰めることは、私たちが生きる社会と向き合うことでもあるはずだ。誰もが裁判員に選ばれる可能性があり、人ごとではない。主権者であるわれわれが司法に参加する意義を、改めて考えたい。

学生の感想

【1年・近澤秀明さん(18)】控訴審で判決が覆ることがあっても、制度は残すべきだ。人を裁く責任は重いが、事件に無関心ではいけない。

【1年・松浦朱里さん(19)】裁判員に参加したいと考えていたが、生死にも関わる人を裁く責任を考えたら、迷いが生まれた。

【1年・前田遼人さん(19)】義務教育の中で必修として裁判員制度について学ぶ必要があると感じた。

【1年・宮下愛子さん(19)】死刑制度がある以上、安易に参加できない。判決は妥当だ

ったのかと悩み続けることは避けたい。

【1年・高松未結さん(19)】裁判員制度は必要だと思うが、その後に(裁判員を)ケアする仕組みを整えてほしい。

【2年・明川千夏さん(19)】市民が司法に参加する裁判員制度は必要。命に対する考え方や、社会に対する見方がより良い方向に変化すると思う。

【1年・崎山南海さん(19)】裁判員として関わるのは荷が重く、参加したくない。ただ、被告人の意見や心理については興味があり、傍聴席から参加したい。

(13日の講義から)

令和元年(2019年)12月21日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

短歌ブーム

宮日と考える

宮崎の明日

宮立大時事問題講義から

▽▽13

全国的に若い世代の間で短歌の人氣が高まり、第3のブームとなっている。根っこには、本県の生んだ国民的歌人・若山牧水(1885～1919)川路 善彦(かわじ・よしひこ)生活文化部長。1996年入社。東諸支局長。報道部長を経て2017年4月から現職。宮崎市出身。46歳。

短歌ブーム

28年)の存在がある。人生に、恋に大いに悩んだ牧水の作品は決して色あせることなく、若い世代にこそきつと身近なものに感じられるはずだ。

牧水こと若山繁は、日向市東郷町坪谷に生まれた。旧制延岡中時代に「牧水」の号を使い始め、新聞投稿など始めている。

酒と旅をこよなく愛し、43年の人生のうち約1700日、9分の1は旅をしていたという。

約9千首の歌を残している。社会人になったばかりの牧水が仕事や人間関係に疲れ、勤め先の屋上で詠んだ「秋風吹くつかれて独りたそがれの露白にのほり空見てあ

若者に伝えたい牧水

れば」や、情熱的な歌(山を見よ山に日は照る海を見よ海に日は照るいさ唇を君)などは共感を持ててのではないだろうか。

牧水を広く顕彰しようと、県、県教委、延岡市、日向市とともに宮崎日日新聞社が設けているのが若山牧水賞。24回目の今年には松村由利子さん「光のアラベスク」、黒岩剛仁さん「野球小僧」のダブル受賞となった。

美しい自然や環境、社会問題を歌う松村さん、サラリーマンの悲哀や家族愛の温かい歌が特長の黒岩さんのインタビュ特集を17日付に掲載した。ぜひ読んで対照的な2人の作品を鑑賞してみてほしい。

学生の感想

【1年・宮里開さん(18)】
〈人の世にたのしみ多し然れども酒なしにしてなにのたのしみ〉からは、牧水のシンプルかつ強烈な酒に対する愛が伝わってくる。

【1年・岩本龍弥さん(19)】
10歳下の弟とよく遊ぶので、黒岩さんの〈七歳の双子の甥との野球盤気づかれぬよう負けるのも技〉に共感した。確かに、気付かれないように負けるのは難しい。

【2年・三笠知紘さん(19)】
黒岩さんの〈四〇〇km先の母からの電話に「何か用？」そ

こが被災地であるとも知らず〉が、思いやりを欠いていた自分に向けられているようで、心に刺さった。

【1年・三上亮さん(19)】
松村さんの〈わたしは木あななたは鳥と思うとき抱くことのない鳥のたましい〉は、自分は愛しているのに、離れるも居座るも相手次第。鳥にとって羽休めであり、休む木はいくらでもある。そんなはかない恋を連想させる。

【1年・橋迫将弘さん(19)】
松村さんの〈やわらかな響きよろしきニホニウム勇み立つとき「ニッポン」現る〉は元素名に日本らしさを垣間見たことがよく伝わってきた。

(20日の講義から)

令和元年(2019年) 12月28日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

保育を問う

宮日と考える
宮崎の明日
公立大時事問題講義から

安倍政権の注目政策である
国の幼児教育・保育の無償化
制度が10月に始まった。制度
の狙いは少子化対策や子育て
世代の支援、保育環境の整備

山 貴行 (すやま・たか
ゆき) 報道
部次長。2
000年入
社。報道
部、日向支
局、整理部、経済部次長など
を経て現職。宮崎市出身。41
歳。

▽▽14

などにあるが、保護者や保育施設からは制度の複雑さに不安や不満の声が上がり、既に予算不足に陥るなど制度設計の不十分さが目立つ。一方制度の廃止を求める議論にならないのは、保育環境の充実はあるからではないだろうか。本紙は制度スタートに先駆け、1月から「保育を問う」をテーマに記事や連載を掲載している。そこで保護者や保育士から集めたカンパ金や、市町村から支給された委託費が業界団体や保育園を通じて自民党系の政治団体に不当に支出されていた実態を明らかにした。

また、保育士の低待遇問題も浮き彫りにした。多くの保

保育を問う

就労環境の改善急務

保育士が退職していた保育園では、園長が著しく高い報酬を受け取っていたしわ寄せで、保育士の手取りが月給10万円ほどだったことが分かった。

低待遇は県全体の問題だ。厚生労働省によると、2018年度の県内の女性保育士の平均年収は34.5万円。全国より40万円も低かった。全国よりも大きく下回るのは本県に保育士の就労環境の改善を求めたり、賃金上昇を訴えたりする団体がいないことも一因ではないだろうか。

20年度の幼保無償化の予算は約1千億円増の8千億円規模に膨らむ見通しだ。必要な人のために適切に使われるよう、行政や市民は監視の目を光らせなければならない。

学生の感想

【1年・愛甲奈生さん(19)】
委託費の使途の規制緩和が問題を生んだのではないかな。運用の規制をある程度定めるべきだと思った。カンパ金も寄付した人に使途を説明しなければならない。

【1年・前田遼人さん(19)】
カンパ金は保育の向上や改善に正当に利用されるのであれば続けていくべきだ。

【1年・工藤千夏さん(19)】
お金の扱いの雑さに学生ながらとても驚いた。カンパ金は使途を透明化し、公表するべきだ。

【1年・釈迦郡遥さん(19)】

委託費は国民のために使われるべきお金なのに、政治に流用されるのはとても残念なことだと思った。行政や保育園は話し合いを重ねながら使い道を考えてほしい。

【1年・宮地月夜さん(19)】
委託費は不正利用がないよう内訳を公表することや、不正防止のために第三者による監査を厳しくするべきだ。

【3年・新田莉子さん(21)】
保育士の仕事の内容は待遇と割に合わない。子どもが生まれ、預けなければいけないと考えると申し訳なく思う。給料を上げれば保育士になる人や復帰する人が増えるのではないかな。

(27日の講義から)

令和2年(2020年) 1月11日(土)

宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日～宮崎公立大学時事問題講義

デジタル時代の報道

宮崎の明日

宮日と考える

～公立大時事問題講義から

▽▽15

インターネット、会員制交流サイト(SNS)の普及により、ニュースはいつでもどこでも、誰でも発信することが容易になった。一方で、



上原 幹生(かんばら・みきお) メディア企画部長

5年入社。1995年入社。西都支局長、整備部長、日向支局長、報道部長、総務部長などを

経て現職。日向市出身。50歳。

デジタル時代の報道

ネット上のニュースは瞬時に際限なく拡散する。フェイクニュースのように、真偽のはっきりしない情報が拡散すれば、時には世論を誤った方向へ導き、社会的な混乱を招く。

ネット上でニュースは半永久的に残り続け、拡散や検索の対象となる。ニュースの当事者の個人情報暴露、差別や偏見、いじめ問題に発展する危険性が高まった。誰でも「情報の加害者」になり得る。特に事件事故の報道では「忘れられる権利」と「知る権利」の対立が指摘されており、慎重かつ真剣に議論していく必要がある。

ネットも新聞も、報道の根幹である「正しく伝える」姿勢

「正確な情報」生命線

勢は変わらない。生命線である、事実に基づく正確な情報を分かりやすく、読者やネットユーザー目線で届けることが大切だ。ネットの速報性や情報量、動画・音声とのリンク、新聞の信頼性や一貫性など、それぞれの強みを生かして付加価値を生み、報道のレベルを高めていきたい。

ライフラインの一つとなったネットがない暮らしは、もはや考えにくい。今後さらに発展し続け、後退はあり得ない。ネットニュースを伝えるデジタルメディア側は、自社サイトに訪れてきてくれたユーザーを満足させるコンテンツ作りを考え、届ける努力を続けていく。

＝おわり＝

学生の感想

【1年、濱田早稀さん(19)】インターネットが発達した現代は、情報をすぐに手に入れることができる利点がある一方、フェイクニュースが拡散されてしまっていて混乱することもある。ニュースを見極める力を身に付けておく必要があると感じた。新聞報道はとても信ぴょう性が高いので、ネットが発達しても、新聞をなくしてはいけない。

【1年、林祐斗さん(19)】紙媒体である新聞には信頼性があると感じる。インターネット記事の中には「これは本当に正しいのか」と疑問に思っ

てしまうものもある。新聞には正しいと信じられる報道をしてほしい。

【3年、石原実果さん(21)】新聞とインターネットそれぞれの長所について改めて理解することができた。ネットがメディアの主役になってくる中で、それぞれがメディアリテラシーを高めていくことが重要だ。

【1年、松尾隼汰さん(19)】自分の発信した情報が一瞬で世界中へと拡散されるので、発信時は、それは事実なのか確認した上でやるべきだと考えた。新聞は若者も読みたいと思える紙面作りに挑戦してもらいたい。

(10日の講義から)

一般財団法人こゆ地域づくり推進機構との連携協力

平成 31(2019)年 4 月 26 日、一般財団法人こゆ地域づくり推進機構（以下、「こゆ財団」という）と連携協力に関する覚書を締結した。

令和元(2019)年度、こゆ財団から無償で講師とフィールドの提供を受けて特別講座を開講した。

●こゆ財団特別講座『いつか帰ってきたいくなる街づくり』（全 6 回＋任意参加 1 回）

担当教員：宮崎公立大学 助教 市村 陽亮

講座目的

本学に通う学生に「自らの内発的動機（ワクワク）」を地域課題解決の中に見い出させ、卒業後又は将来に宮崎の地域課題をビジネスチャンスとして昇華できるビジネスプレイヤーを育成・輩出することを講座の目的とする。

第 1 回 5 月 10 日（金） 宮崎公立大学

【オリエンテーション】

グループワークを中心としつつ、新富町及びこゆ財団の活動に関することを知るための導入の機会とした。



第 2 回 5 月 25 日（土） 新富町各所

【フィールドワーク】

新富町各所をみて回りながら、地域の課題や取り組みについて知る機会とした。

場所：こゆ財団オフィス、新富町内各所（富田浜、日向新富駅、JA 直売所ルーピン、伊藤酒屋、新緑園、ビックバーガー、カフェキートス）

第3回 6月7日(金) 宮崎公立大学

【プラン作成】

第3回までに、グループごとに素案を作成し、ディスカッションを重ねていった。次回講座にてこの回に出たアイデアを実際に検証する場を用意しているため、具体的にアイデアを作っていく場とした。

第4回 6月16日(日) 新富町商店街

【「こゆ朝市」を利用した実地検証】

一度考えたプランを「こゆ朝市」の場を活用して、検証を行った。検証にあたり、実際に店舗を出して販売や実演を行い、自分たちの考えているアイデアをリアルな場で検証する機会とした。



こゆ朝市会場



タピオカミルクティー等の販売する学生



子供を対象にネイルサロンを実演する学生

第5回 7月5日(金) 宮崎公立大学

【プランの見直し・最終案の策定・報告会準備】

検証をもとにプランを見直し、最終案に練り上げていき、最終報告会に向けた準備を行った。

第5.5回 7月25日(木) 宮崎公立大学

【報告会準備】

最終報告会に向けた準備を行った。

第6回 7月27日(土) 新富町 総合交流センター「きらり」

【公開型プレゼンテーション】

新富町総合交流センター「きらり」にて、新富町関係者や一般の方を対象に、公開型プレゼンテーションで成果報告を行った。

自分たちのアイデアが、実際に町の方々にどう受け止められるのか、実際にやろう、やりたいという声があがるのかを体感できる場とした。



今回の講座を通じて、学生たちは地域貢献に寄与する方々からお話を伺い、自身がその地域に足を運び、実際にそこで起こっている事例を基に、学修を深めていきました。この講座を通じて得ることのできた貴重な経験や知識を、今後の学生生活や自身の将来の進路決定に生かしていくことが期待されます。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と包括的連携協力協定

2020年3月11日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社と包括的連携協力に関する協定を締結しました。

公立大学法人宮崎公立大学とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、相互に連携協力し、互いが有する資源や機能などを活用することにより、学生の教育の充実を図るとともに、地域社会の振興と発展に寄与することを目的に、包括的連携協力に関する協定を締結しました。



本協定の締結により、今後、本学学生の人材育成やキャリア形成などを目的とした講義に、講師を派遣していただくことなどを予定しております。

IV 資 料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会場など、学内外で利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学 10 周年を迎えたことを記念し建設された施設で、1 階が学生支援センターと就職支援室、2 階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員又はそれらが関与する団体などが使用する施設とされています。

1 令和元(2019)年度施設利用状況

開館日 (285 日) 利用日 (267 日) 利用率 93.7%

2 施設別の利用状況

施 設 名		利用件数	利用率	備 考
交流センター	多目的ホール	175	61.4%	
	会議室	137	48.1%	
	和室	194	68.1%	
凌 雲 会 館	会議室AB	72	25.3%	
	共同研究室	130	45.6%	
	IT教育支援室	8	2.8%	*行事日以外は学生に開放

3 行事別の利用状況

施 設 名		学内行事 * 1	講座等 * 2	教員関連 * 3	学外行事 * 4	部活動
交流センター	多目的ホール	7.4%	42.9%	7.4%	40.6%	1.7%
	会議室	6.6%	—	4.4%	88.3%	0.7%
	和室	3.1%	0.5%	3.6%	7.2%	85.6%
凌 雲 会 館	会議室AB	66.7%	2.8%	20.8%	—	9.7%
	共同研究室	19.2%	60.0%	20.0%	—	0.8%
	IT教育支援室	75.0%	—	25.0%	—	—

* 1 学内行事：短期留学生研修、大学訪問案内等

* 2 講 座 等：英語講座、中国語講座、韓国語講座、公務員講座等

* 3 教員関連：自主講座等

* 4 学外行事：高等教育コンソーシアム、他団体研修等

令和元(2019)年度 地域貢献部会 開催実績

	開催日時	開催場所	主 な 議 題
第 1 回	平成 31 年 4 月 25 日(木) 10:30～12:00	研究講義棟 504 会議室	・ 第 3 期中期計画 ・ 地域貢献活動 ・ R 元年度後期開放授業科目 ・ R 元年度小学生英語教室 ・ R 元年度自主講座 ・ R 元年度公民館講座
第 2 回	令和元年 5 月 23 日(木) 10:30～11:30	研究講義棟 504 会議室	・ R 元年度定期公開講座 ・ R 元年度開放授業アンケート ・ R 元年度語学講座 ・ R 元年度自主講座 ・ 地域貢献活動
第 3 回	令和元年 6 月 13 日(木) 10:30～11:00	研究講義棟 504 会議室	・ R 元年度後期開放授業 ・ R 元年度開放授業アンケート ・ 地域貢献活動
第 4 回	令和元年 7 月 11 日(木) 10:30～11:00	研究講義棟 504 会議室	・ 台風等に伴う各種講座取扱 ・ 自主講座報告
第 5 回	令和元年 9 月 10 日(火) 13:00～14:30	研究講義棟 504 会議室	・ R 元年度定期公開講座 ・ 地域貢献活動 ・ こゆ財団との講座 ・ 自主講座報告
第 6 回	令和元年 10 月 8 日(火) 13:00～14:30	研究講義棟 504 会議室	・ 第 3 期中期計画 ・ 宮崎公立大学地域貢献基本方針 ・ R 元年度定期公開講座 ・ 連合寄附講座
第 7 回	令和元年 11 月 15 日(金) 13:00～14:30	研究講義棟 504 会議室	・ R2 年度前期開放授業 ・ 連合寄附講座 ・ 第 3 期中期計画 ・ 地域貢献活動 ・ R 元年度定期公開講座報告
第 8 回	令和元年 12 月 13 日(金) 13:00～14:30	研究講義棟 504 会議室	・ 地域貢献推進基本方針 ・ 地域貢献活動 ・ 自主講座報告 ・ R2 年度前期開放授業
第 9 回	令和 2 年 1 月 27 日(月) 10:30～12:00	研究講義棟 504 会議室	・ R2 年度定期公開講座 ・ R2 年度前期開放授業 ・ R2 年度語学講座 ・ 第 3 期中期計画 ・ 地域貢献活動
第 10 回	令和 2 年 2 月 12 日(水) 10:30～12:00	研究講義棟 504 会議室	・ R2 年度自主講座 ・ 第 3 期中期計画 ・ 地域貢献活動 ・ 自主講座報告
第 11 回	令和 2 年 3 月 9 日(月) 13:00～13:50	凌雲会館 共同研究室 1	・ 小・中学校等連携教育研究活動 ・ 自主講座報告 ・ 公開研究発表会 ・ R2 年度定期公開講座

V 付 録

新 聞 掲 載 記 事 一 覧

	掲 載 日	掲 載 紙	見 出 し
1	令和元年 5 月 10 日	宮崎日日新聞	若者へ選挙啓発評価 東京の団体 公立大「ライツ」表彰
2	令和元年 6 月 14 日	宮崎日日新聞	若者の選挙関心高めて 公立大「ライツ」委員委嘱
3	令和元年 6 月 25 日	宮崎日日新聞	人事担当者と公立大生交流
4	令和元年 7 月 11 日	宮崎日日新聞	宮崎公立大福祉避難所に
5	令和元年 8 月 3 日	宮崎日日新聞	新富で盆踊り大会を 公立大生が活性化策発表
6	令和元年 9 月 18 日	宮崎日日新聞	影清廟伝説に忠実 公立大教授薪能演目を解説

令和 元年(2019 年) 5 月 10 日(金)

宮崎日日新聞社提供

若者へ選挙啓発評価

東京の団体 公立大「ライツ」表彰



若者への投票啓発などで、明るい選挙推進協から表彰を受けた「ライツ」のメンバー

宮崎公立大(有馬晋作学長)の学生でつくる選挙啓発部「ライツ」は、若者の投票率向上に向けた取り組みなどが評価され公益財団法人「明るい選挙推進協会」(東京

都)から表彰を受けた。結成から4年目を迎え、メンバーは「同世代の自分たちが声を上げることに意味がある。もっと活動の幅を広げていきたい」と意気込む。

ライツは、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられるのを機に2016年4月、行政論ゼミの学生がサークル活動としてスタート。若者の投票率の向上や政治的関心を高めることを目的に活動してきた。次第に、ゼミ以外の学生も参加するようになり、17年7月に部に昇格。現在は2、3年

生13人が所属している。

宮崎市選挙管理委員会などと連携し、市内の小学校などに出席授業の中で模擬投票を行ったり、選挙期間中に学内外で投票参加を呼び掛ける啓発チラシを配ったりする活動が中心。こうした取り組みが認められ、同協会の18年度の優良活動表彰7団体の一つに選ばれた。

本年度から部長を務める2年本谷涼太さん(19)は「先輩たちが続けてきた活動をしっかりと受け継ぎ、より選挙や政治を身近に感じられるような仕掛けもしていきたい」と話した。(島田喜恵)

令和 元年(2019 年) 6 月 14 日(金)

宮崎日日新聞社提供

若者の選挙関心高めて

公立大「ライツ」委員委嘱

宮崎市

若者に選挙への関心を高め、地域での啓発活動、学校でもらおうと、宮崎市明るいでの出前講座などを行う。

選挙推進協議会は11日、宮崎公立大の選挙啓発サークル「ライツ」のメンバー28人を同協議会の委員に委嘱した。任期は再来年3月末までで、同協議会の会議に参加するほ



委嘱状を受け取る宮崎公立大のサークル「ライツ」のメンバー

し、「7月にある参院選の投票率アップに向けて、若い力を発揮してもらいたい」と激励した。

同サークルの部長で、2年の本谷涼太さん(19)は「まずは自分たちの大学から意識を変えていけるように頑張りたい」と話した。

(今村雅世)

令和 元年(2019 年) 6 月 25 日(火)

宮崎日日新聞社提供

◎ 人事担当者と 公立大生交流

宮崎公立大は18日、学生と県内企業の人事担当者らが交流するイベント「Weekly Work Cafe」を開いた。学生約50人と5社が参加。お茶を囲んで気軽に会話を楽しみながら、相互理解を深めた。写真。

県内に魅力的な企業があることを学生に知ってもらおうと開催した。テーブルごとに企業担当者が福利厚生や業務内容などを説明。学生からは「転勤はあるのか」「インターンシップには行くべきか」など積極的な質問があった。



中国人留学生で3年生の丁同芳さん(22)は「社員としてくりと会話する中で興味が湧いてきた。働くイメージもできた」と話していた。

令和 元年(2019 年) 7 月 11 日(木)

宮崎日日新聞社提供

宮崎公立大福祉避難所に

バリアフリー対応 宮崎市が協定

■ 地域防災 ■

宮崎市は、災害時に高齢者や障害者などが利用する福祉避難所として、宮崎公立大(有馬晋作学長)の施設を活用できるよう、同大学と8日

に協定を結んだ。大学の施設を福祉避難所にするのは、県内で初めてという。

福祉避難所は、高齢者や障害者、妊産婦など特別な配慮が必要な避難者のための二次的避難所で、地震や風水害など避難生活の長期化が予想される災害時に設けられる。同大学はすでに、体育館が約900人収容の指定避難所に指定されている。今回の協定では、バリアフリー対応の交流センター(収容可能人数100人)が対象施設となる。

市福祉総務課によると、市全体では約2万人の要配慮者がいるとみられる。だが福祉避難所の数は、市の文化施設や民間の高齢者施設などを中心に78施

設。収容可能人数は3197人にとどまっている。同課は「公共、民間を問わずさまざまな分野のバリアフリー対応の施設を福祉避難所として活用できないか、今後検討を進めたい」としている。(島田喜恵)



市が新たに福祉避難所として協定を結んだ、宮崎公立大の交流センター

令和 元年(2019 年) 8 月 3 日(土)

宮崎日日新聞社提供

新富で盆踊り大会を

公立大生が活性化策発表

宮崎公立大生が新富町の 曜日に開かれる「こゆ地域課題を発見し、活性化策を語る講座の研究発表会」を探る講座の研究発表会だ。

は7月27日、町総合交流センター「きらり」であった。学生12人がフィールドワークなどを通じて発案した「まちづくりのアイデア」を紹介した。

同町の「こゆ地域づくり推進機構」と同大学が連携し、5月から計6回の講座を開催。座学のほか、町内の商店街で毎月第3日

でも発表された。ウミガメの産卵地・富田浜を守るための取り組みなども発表された。

講座に参加した同大学人文学部4年の高妻弘太郎

さん(22)は「新富を知るところから始め、いい形で終われたことは自信になる。今後もまちづくり活動に参加したい」と話していた。

(林慎次)



講座を通じて発案したアイデアを発表する宮崎公立大生

令和 元年(2019 年) 9 月 18 日(水)

宮崎日日新聞社提供

景清廟伝説に忠実

公立大教授 薪能演目を解説 延岡

文弥節人形浄瑠璃」は「元の伝説から派生したストーリー」が基軸となっている」と説明した。

延岡市の延岡城址で10月12日に開かれる「のべおか天下一薪能」を学ぶ講座は12日、同市東本小路の延岡市民協働まちづくりセンターであった。今年の演目で宮崎市が舞台の物語「景清」について、宮崎公立大の永松敦教授(民俗学)が解説した。

永松教授は同市内の史跡「景清廟」について「能で演じられている景清伝説を忠実に伝えている」と解説。都城市山之口町の重要無形民俗文化財「山之口麓

景清は「平家物語」に勇猛な武人として描かれ、その伝説は能や歌舞伎、落語など後の芸能・文学に多大な影響を及ぼした。



薪能の関連講座で景清伝説について解説する永松敦教授

地域研究センター年報
令和元(2019)年度第12号

発行日 : 令和2年10月
編集者 : 宮崎公立大学 地域研究センター
住所 : 〒880-8520 宮崎市船塚1丁目58番地
宮崎公立大学地域研究センター
電話 : 0985-20-4772
FAX : 0985-20-4773
URL : <http://www.miyazaki-mu.ac.jp>
E-Mail : mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

